PHILIPS

Videowall Display
8000 Series

55BDL8107X



ユーザーマニュアル (日本語)

www.philips.co.jp/p-m-pr/signage-solutions

目次

1. **安全上の注意 1**
2. 開梱と設置 4
   - 2.1. 開梱 4
   - 2.2. 開梱検査手順 6
   - 2.3. 梱包箱に含まれているもの 9
   - 2.4. 設置に関する注意 9
   - 2.5. 壁に取り付ける 10
     - 2.5.1. VESA 規格取付穴 10
   - 2.6. 縦長向きの設置について 11
   - 2.7. エッジアラインメントキットの使用法 12
     - 2.7.1. エッジアラインメントキットを取り付ける 12
   - 2.8. エッジ仕上げキットの使用 (オプション) 13
   - 2.9. ギャップパッドの使用 14
3. 各部の機能 15
   - 3.1. コントロールパネル 15
   - 3.2. 入力 / 出力端子 16
   - 3.3. リモコン 17
     - 3.3.1. 一般の機能 17
     - 3.3.2. リモコン ID 18
     - 3.3.3. リモコンに乾電池を挿入する 19
     - 3.3.4. リモコンの取り扱い 19
     - 3.3.5. リモコンの動作範囲 19
4. 外部機器を接続する 20
   - 4.1. 外部機器の接続 (マルチメディアプレーヤー) .. 20
     - 4.1.1. HDMI ビデオ入力の使用 20
   - 4.2. PC の接続 20
     - 4.2.1. VGA 入力の使用 20
     - 4.2.2. DVI 入力の使用 20
     - 4.2.3. HDMI 入力の使用 21
     - 4.2.4. DisplayPort 入力の使用 21
   - 4.3. オーディオ機器の接続 21
     - 4.3.1. 外部オーディオ装置の接続 21
   - 4.4. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接続する 22
     - 4.4.1. ディスプレイコントロール接続 22
     - 4.4.2. デジタルビデオ接続 22
   - 4.5. IR 接続 24
5. 取り扱い 25
   - 5.1. 接続されたビデオソースから鑑賞する 25
   - 5.2. 画像フォーマットを変更する 25
6. OSD メニュー 25
   - 6.1. OSD メニューをナビゲートする 25
     - 6.1.1. リモコンを使用して OSD メニューをナビゲートする 25
     - 6.1.2. ディスプレイのコントロールボタンを使用して、OSD メニューをナビゲートする 25
   - 6.2. OSD メニューの概要 25
     - 6.2.1. 映像設定メニュー 25
     - 6.2.2. 画面設定メニュー 26
     - 6.2.3. 音質設定メニュー 27
     - 6.2.4. 子画面設定メニュー 28
     - 6.2.5. 詳細設定 1 メニュー 29
     - 6.2.6. 詳細設定 2 メニュー 30
     - 6.2.7. Advanced option メニュー 31
7. 入力モード 35
8. 画素欠陥ポリシー 37
   - 8.1. 画素とサブ画素 37
   - 8.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義 37
   - 8.3. 明るいドット欠陥 37
   - 8.4. 暗いドット欠陥 38
   - 8.5. 画素欠陥の近接 38
   - 8.6. 画素欠陥の許容範囲 38
   - 8.7. MURA 38
9. 清掃とトラブルシューティング 39
   - 9.1. 清掃 39
   - 9.2. トラブルシューティング 40
10. 技術仕様 41

索引 43

1. 安全上の注意

安全のための注意事項とメンテナンス



警告：本書で指定していない制御、調整または手順を使用すると、感電、電気的障害、機械的災害につながる可能性があります。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。

この製品は、ビジネス環境における専門的な設置での使用のみを目的としており、家庭での使用には適していません。

このデバイスが意図されている以外の使用は、保証を無効にする可能性があります。

操作時：

- ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- ディスプレイを油に近づけないでください。プラスチックカバーが損傷する可能性があります。
- ディスプレイは十分に換気されている場所に設置してください。
- 屋外で使用する場合は、紫外線フィルターが必要です。
- 温度が高い、湿度が高い、表示頻度が高い、動作時間が長いなど、極端な条件下でディスプレイを使用する場合は、Philips のアプリケーションエンジニアにご相談ください。ご相談いただかなかった場合、ディスプレイの信頼性と機能への保証が損なわれる可能性があります。極端な条件は、空港、乗換駅、銀行、証券取引所、制御システムになどでよく見受けられます。
- 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- 電源コードを取り外すことでディスプレイの電源をオフにする場合、6 秒待ってから電源コードを再び取り付けて通常操作を行ってください。
- Philips が提供する認可された電源コードを使用してください。電源コードが入っていない場合、カスタマサポートにお問い合わせください。
- 操作中、ディスプレイを強い振動や高い衝撃条件にさらさないでください。
- ディスプレイの操作中あるいは運搬中に、モニターを叩いたり落としたりしないでください。
- アイボルトはメンテナンスや設置の際に短期間使用するためのものです。1 時間以上にわたりアイボルトを使用し続けないことを推奨します。長期にわたっての使用は禁止されています。アイボルトを使用する際には、ディスプレイの下に障害物を置かないようにして安全エリアを確保してください。

メンテナンス：

- ディスプレイを損傷の可能性から保護するために、LCD パネルに過剰な圧力をかけないでください。ディスプレイを動かしているとき、フレームをつかんで持ち上げます。LCD パネルに手や指を置いてディスプレイを持ち上げないでください。
- 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。落ちにくい場合は少量の水をしめらせた布でふき取ってください。ただし、アルコール、アンモニアベースの液体などの有機溶剤を使用してディスプレイを洗浄することは絶対におやめください。
- 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを埃、雨、水、湿気の多い環境にさらさないでください。
- ディスプレイが濡れたら、できるだけ速やかに乾いた布で拭いてください。
- ディスプレイに異物や水が入ったら、直ちに電源をオフにし、電源コードを抜いてください。それから、異物や水を取り除き、メンテナンスセンターに送ってください。
- 熱、直射日光、極端な低温にさらされる場所でディスプレイを保管したり、使用したりしないでください。
- ディスプレイ最高のパフォーマンスを維持し長く使用するために、次の温度および湿度範囲に入る場所でディスプレイを使用使用することを強くお勧めします。

環境的絶対定格

項目	最小	最大	単位
保管温度	-20	60	° C
動作温度	0	40	° C
ガラス面温度 (動作時)	0	65	° C
保管湿度	5	95	% RH
動作湿度	20	80	% RH

- 輝度の性能を向上させるため、LCD パネルの温度は常に摂氏 25 度に保つ必要があります。
- 適切な動作条件でディスプレイが使用された場合にのみ、本仕様に記載されているディスプレイの寿命が保証されます。

重要：ディスプレイの前を離れるときは、常にスクリーンセーバーをオンにしてください。装置が変化しない静止コンテンツを表示している場合、常に定期的にスクリーンリフレッシュアプリケーションを起動してください。長時間静止画像を表示すると、画面に「残像」または「ゴースト像」として知られる「焼き付き」が表示される原因となります。これは LCD パネル技術ではよく知られた現象です。ほとんどの場合、電源をオフにすると「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」は時間とともに徐々に消えます。

警告：「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」症状はひどくなり、消えることも修理することもできなくなります。これは、保証には含まれません。

サービス：

- ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- 修理または統合が必要な場合、最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。
- ディスプレイを直射日光にさらさないでください。



本書で設定した指示に従っても本製品が正常に動作しない場合は、修理スタッフまたは最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。

安定性上の危険性。

ディスプレイが落下すると、重傷または死亡を引き起こす可能性があります。怪我を防止するため、設置説明書に従って、床 / 壁にディスプレイをしっかりと固定してください。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。



- 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。電源をオフにしているとき、画面を乾いた布で拭くことができます。ただし、アルコール、溶剤、またはアンモニアベースの液体は絶対に使用しないでください。
- 本書の指示に従っているときにディスプレイが正常に作動しない場合、修理スタッフにお問い合わせください。
- ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ディスプレイは乾燥した状態を保つようにしてください。感電の原因となるため、雨や過度の湿気にさらさないでください。
- 電源ケーブルや DC 電源コードを取り外すことでディスプレイの電源をオフにする場合、6 秒待ってから電源ケーブルや DC 電源コードを取り付けて通常操作を行ってください。
- 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを雨や過度の湿気にさらさないでください。
- ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- **重要：**ディスプレイを使用しない場合、スクリーンセーバープログラムを常に有効にしておいてください。コントラストの高い静止画像が長期間画面に表示されていると、画面の前面に「残像」または「ゴースト像」が残ることがあります。これは、LCD 技術に特有の欠点に起因する、よく知られた現象です。ほとんどの場合、電源をオフにすると残像は時間と共に徐々に消えます。残像症状は修理できず、保証に含まれないことにご注意ください。
- 電源コードに 3 ピン取り付けプラグが付属している場合は、接地 (アース) された 3 ピンコンセントにコードを接続してください。2 ピンアダプターを取り付けるなどして、電源コードの接地ピンを無効にしないでください。接地ピンは重要な安全機能です。

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

粗分類		化学物質表					
		Pb	Hg	Cd	Cr6+	PBBs	PBDEs
前面ベゼル		O	O	O	O	O	O
背面カバー		O	O	O	O	O	O
パネル		除外項目	O	O	O	O	O
LCD パネル	WLED	除外項目	O	O	O	O	O
	CCFL	除外項目	除外項目	O	O	O	O
PCBA		除外項目	O	O	O	O	O
ケーブル & ワイヤ		除外項目	O	O	O	O	O
リモコン		除外項目	O	O	O	O	O

*：PCBA はベア印刷回路基板、で構成され、はんだ付けおよび抵抗器、コンデンサ、アレー、コネクタ、チップなど、その表面実装エレメントで構成されます。

注 1:「O」は、計算される物質の含有率が参照含有率を超えていないことを示します。

注 2:「除外項目」項目は、特定の化学物質が JIS C 0950: 2021 の規格により除外項目とされた項目に対応することを意味します。

JIS C 0950: 2021

2. 開梱と設置

2.1. 開梱

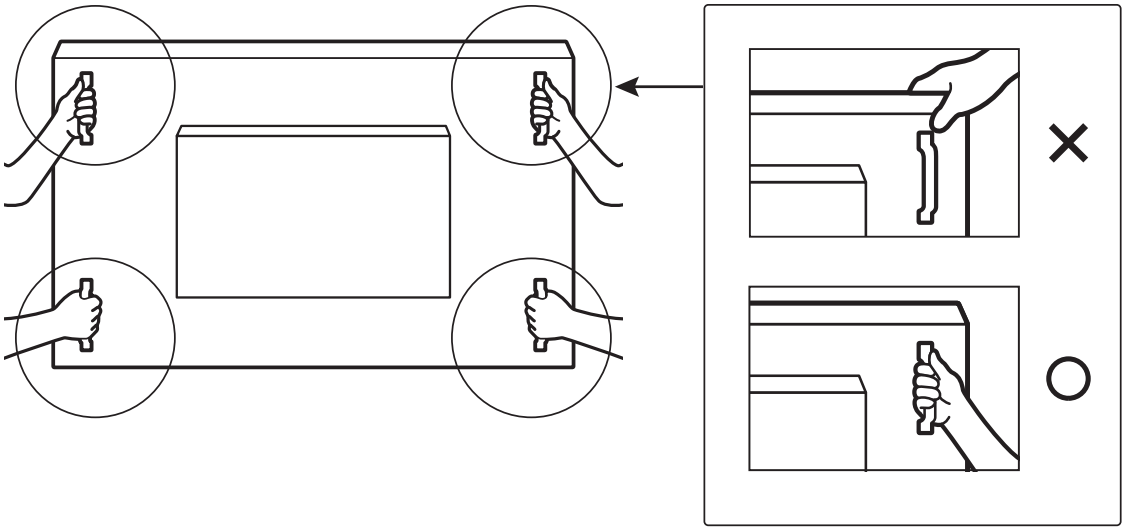
- 本ディスプレイは、標準アクセサリーと共に専用の箱に梱包されています。
- オプションのアクセサリーは、別途ご購入が必要です。
- 本ディスプレイは背が高く重いため、移動させる際には 2 人の技術者が行うようにしてください。
- 開梱後、内容物に不足がなく、状態に問題がないことをご確認下さい

■ 開梱する前に

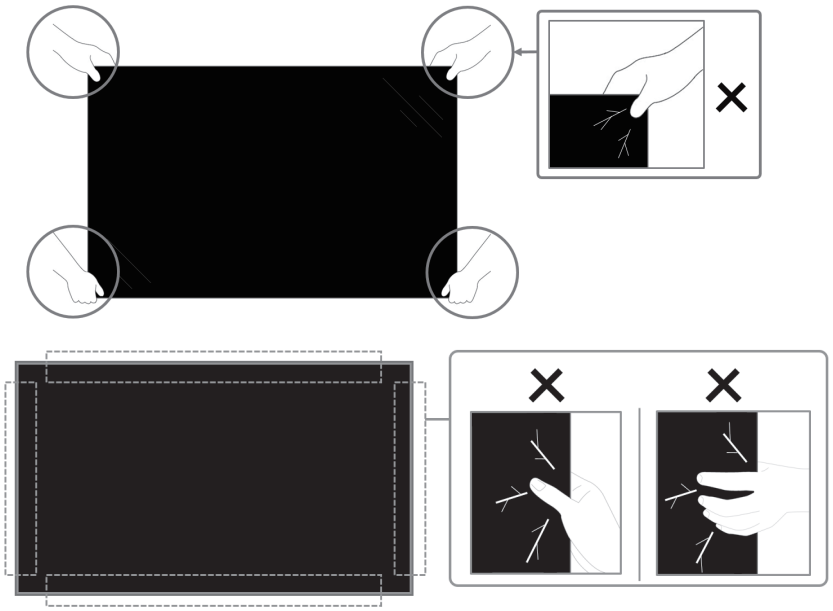
- 設置する前に、開梱通知を読んで十分に理解してください。
- 梱包の状態を確認してください。梱包が破損していないことを確認してください。
- ディスプレイを段ボールから取り出す前に、必要な検査を行ってください。
- 損傷を防ぐために、常に経験豊富な技術者がディスプレイを取り付けるようにしてください。

■ 通知

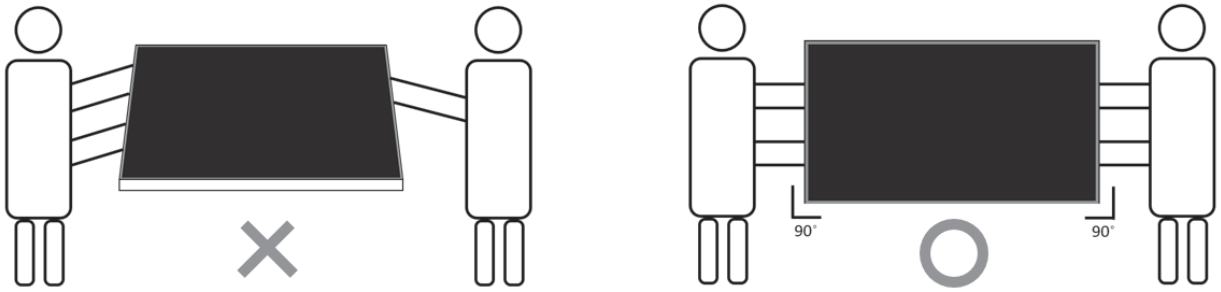
- 大人 2 人が両手を使って段ボールからディスプレイを取り出してください。
- ハンドルを握ってください。



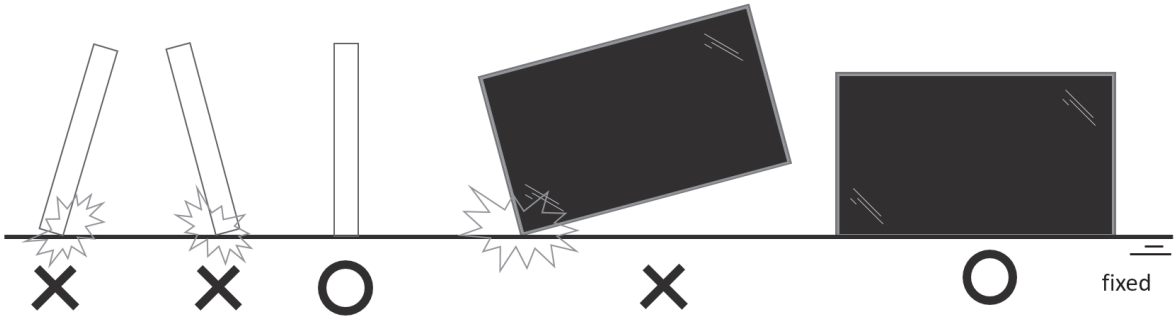
- ディスプレイのベゼルの端をつかまないでください。



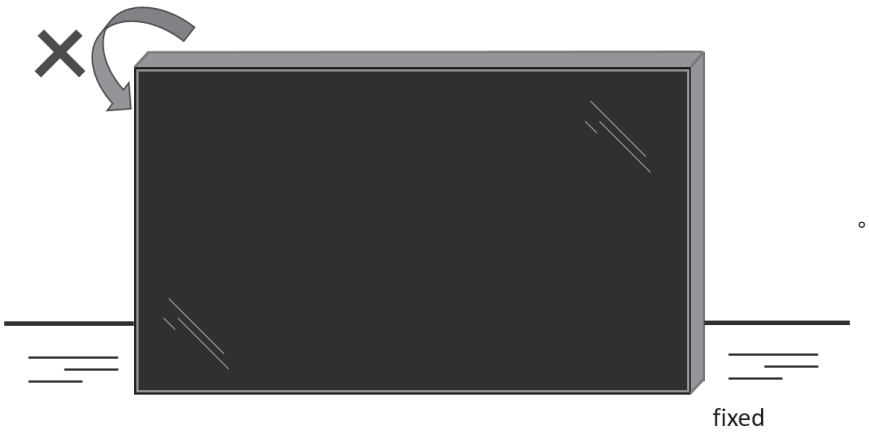
- ディスプレイを動かすときは、ディスプレイを垂直に維持してください。



- ディスプレイを垂直にすることで、ディスプレイの重量が表面に均等に分散します。



- 輸送中の曲げたり、ねじったりしないでください。

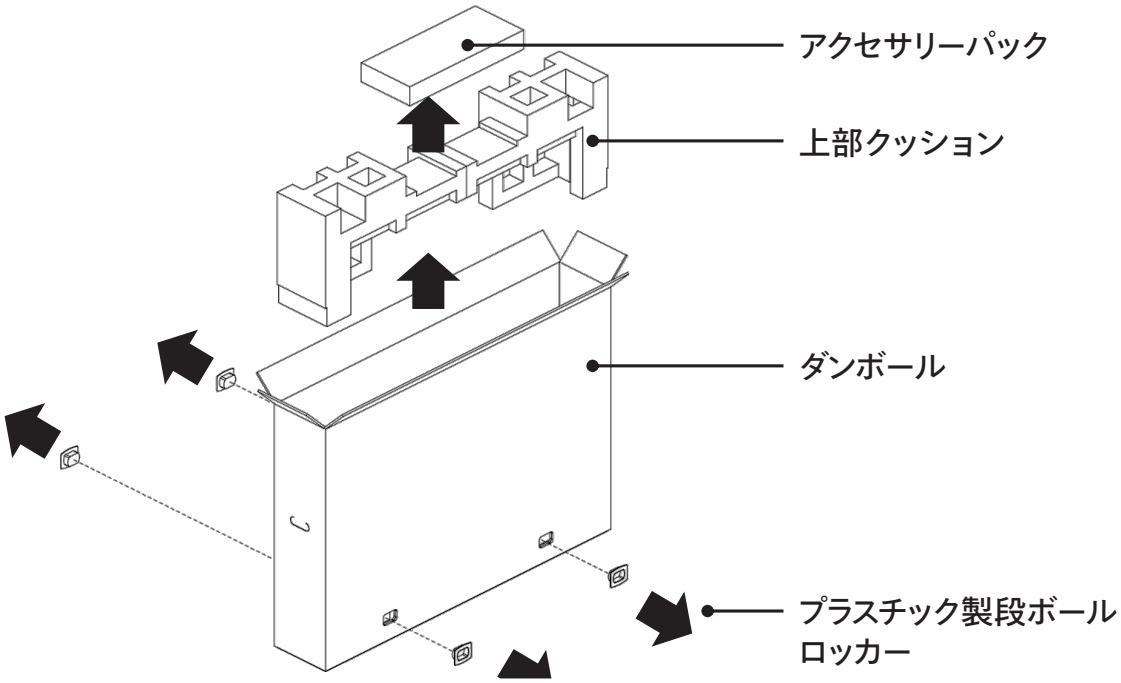


2.2. 開梱検査手順

- 梱包を開封する前に、検査手順をお読みください。(検査手順は箱の上部に印刷されています)。
- シーリングラベルを剥がす前に、製品が良好な状態にあることを確認してください。そうでない場合、保証は無効になります。

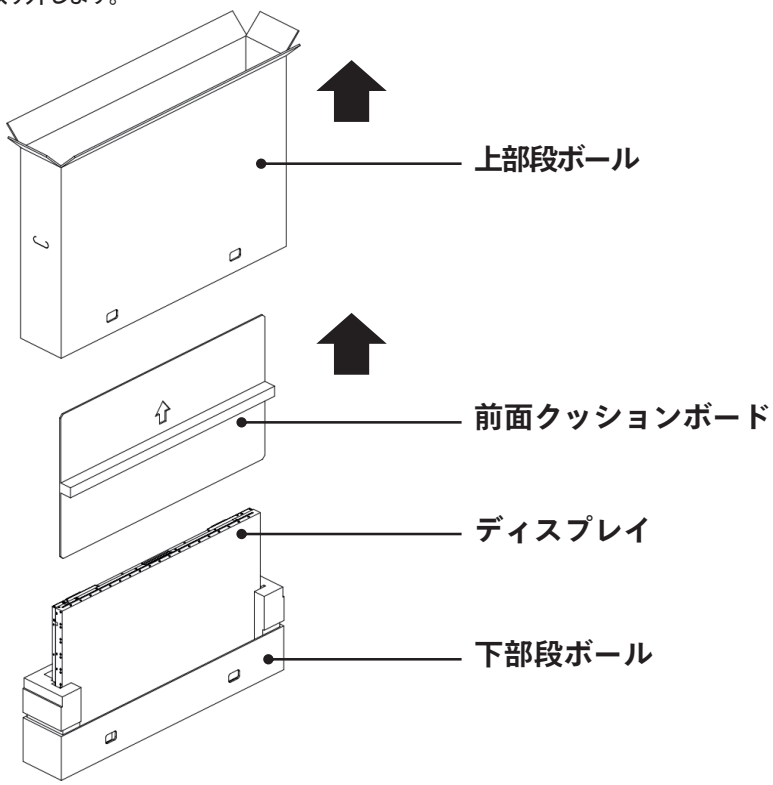
(1). 段ボールを開き、アクセサリーパックと上部クッションを取り出します。

(2). プラスチック製の段ボールロッカーを取り外します。

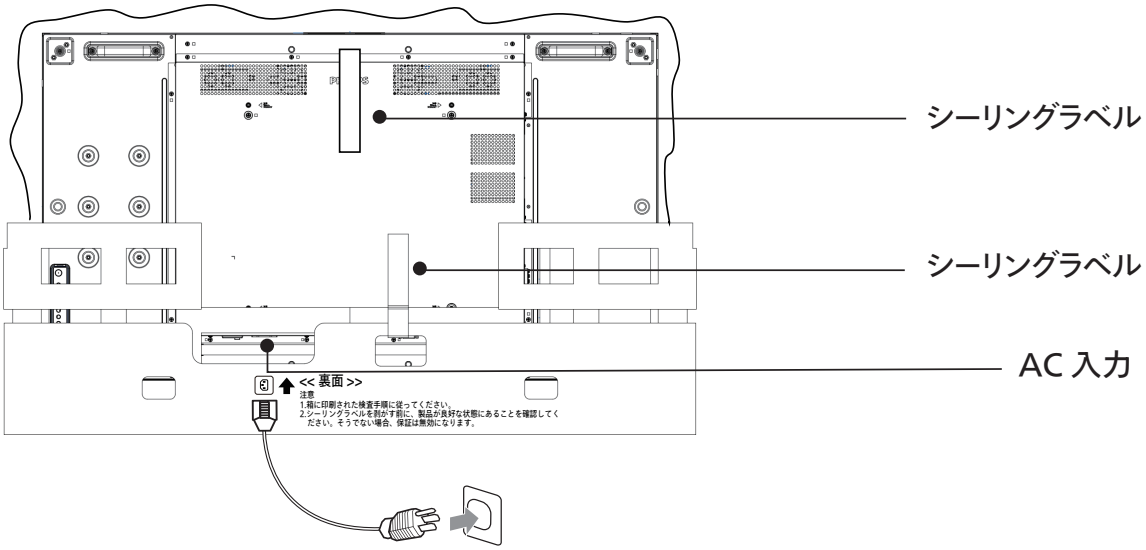


(3). 上部段ボールを慎重に取り外します。もう一人の人がディスプレイを注意深く保持するようにしてください。これを遵守しないと、ディスプレイが落下する場合があります。

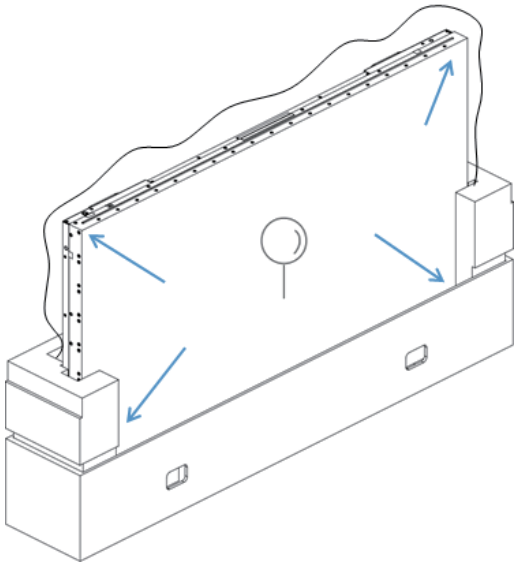
(4). 前面クッションボードを取り外します。



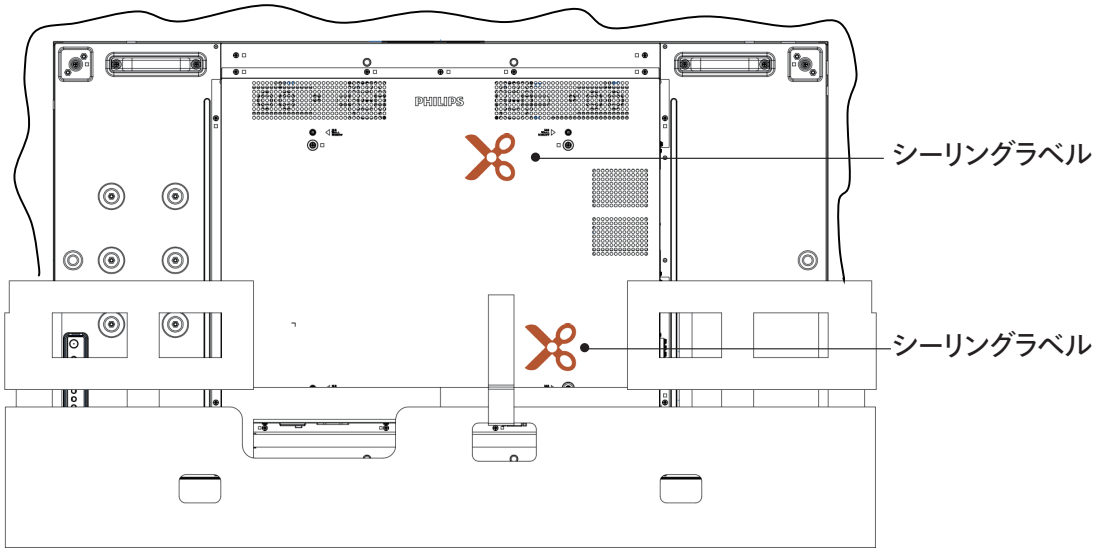
(5). 電源コードをディスプレイの背面に接続します。電源コードのもう一方の端をコンセントに差し込み、ディスプレイの電源を入れます。



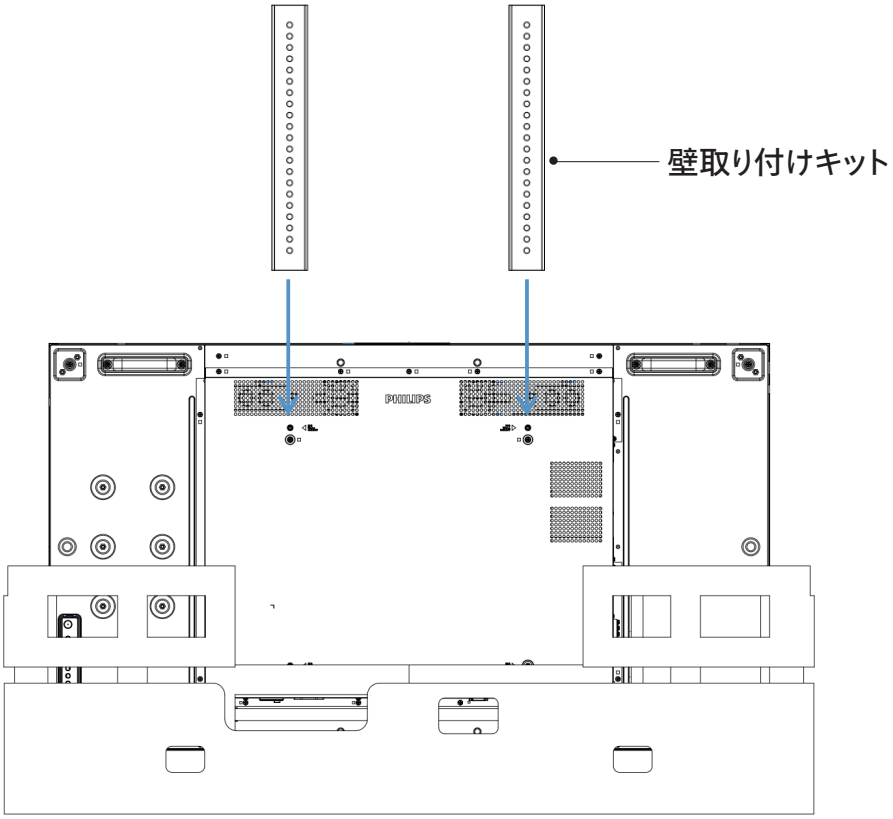
(6). ディスプレイはホワイトスクリーンテストを開始します。画面、特にディスプレイの四隅に異常がないか注意深く調べてください。



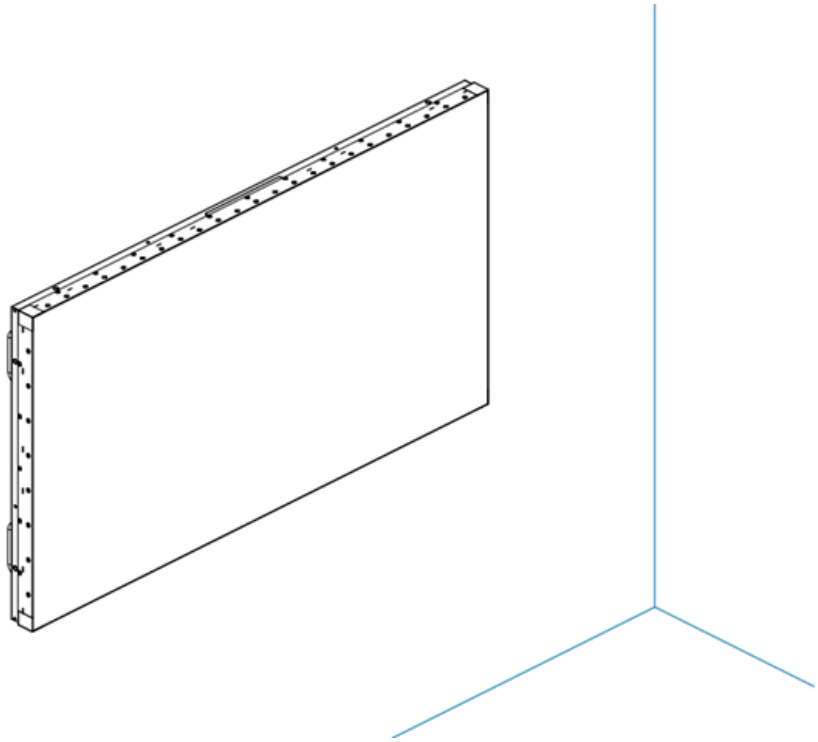
(7). 損傷が見つからない場合は、シーリングラベルを切断します。



(8). 壁取り付けキットを取り付けます。



(9). ディスプレイを壁に取り付けます。



2.3. 梱包箱に含まれているもの

パッケージに次の品目が揃っていることを確認してください：

- LCD ディスプレイ
- リモコンとリモコン用単 4 乾電池
- 保証書
- クイックスタートガイド
- 電源ケーブル
- Display Port ケーブル
- IR センサーケーブル
- エッジアライメントキット- 1
- RJ12/45 DB9 アダプタ
- RJ45 ケーブル
- エッジアライメント用ピン X 2 PCS
- エッジアライメントキット- 2 X 2 PCS
- HDMI ケーブル
- D-sub ケーブル
- ベゼルパッド X 3 PCS
- ケーブル留め X 3 PCS
- ネジ



* 地域によって異なります。

ディスプレイのデザインとアクセサリーは、上記例示したものと異なる場合があります。

メモ：

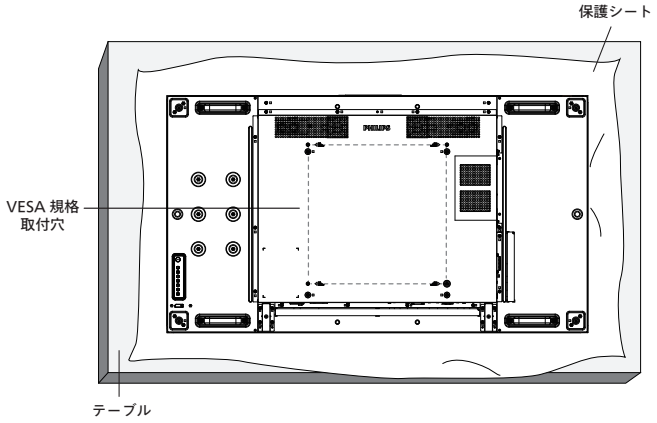
- 他のすべての地域の場合、コンセントの AC 電圧に一致し、特定の国の安全規制により承認され適合する電源コードを利用してください。
- 本製品を運搬する際は、専用の梱包箱と梱包材の使用を推奨します。

2.4. 設置に関する注意

- 本ディスプレイに付属する電源ケーブルのみを使用してください。延長コードが必要な場合は、代理店にお問い合わせください。
- 本ディスプレイは、倒れる可能性を考慮して、平らな面に設置してください。ディスプレイの背面と壁の間には、適切な換気が保てるようにスペースを確保してください。台所、浴室など、湿気のある場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、内部部品の寿命が短くなる可能性があります。
- 高度が 3000 m 以上の場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、誤動作する可能性があります。

2.5. 壁に取り付ける

壁に本ディスプレイを取り付ける場合は、標準の壁取り付けキット (市販品) が必要です。北米では TUV-GS および / または UL1678 規格に準拠した取り付け用インタ - フェイスを使用してください。



(1). 平らな面に、梱包時に本ディスプレイを包んでいた保護シートを広げてください。画面を傷つけることなく、スムーズに取り付けられるように、保護シートの上に、ディスプレイを下に向けた状態で置いてください。

(2). 取り付けるタイプ (壁掛け、天上取り付けなど) に必要となるすべての付属品があることを確認してください。

(3). 取り付けにあたっては取付金具に同梱の説明書をよくお読み下さい。取付手順を誤ると、破損や作業者の怪我につながる恐れがあります。誤った取付方法が原因で生じた破損は、当社の保証の対象外となりますので、ご注意下さい。

(4). 壁掛け用取付金具には、M6 取付ねじ (取付ブラケットの厚さより 10 ㎜以上長いもの) を使用し、しっかりと固定して下さい。

2.5.1. VESA 規格取付穴

55BDL8107X	400 (横) x 400 (縦) mm

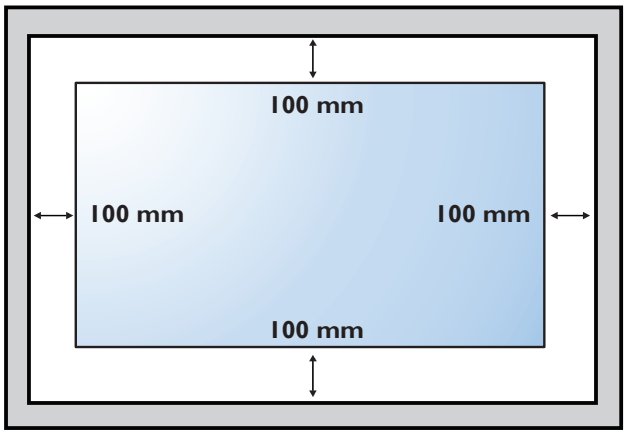
注意:

本製品の落下を防止するために:

- 本製品を壁または天井へ設置する場合は、市販の金属製ブラケットを使用して設置することを推奨します。設置に関する詳細な手順については、ブラケットに付属の取扱説明書を参照してください。
- 地震または他の自然災害が発生した場合に本ディスプレイが落下することがないように、取り付ける位置については、ブラケットのメーカーにお問い合わせください。

換気用に必要なスペース

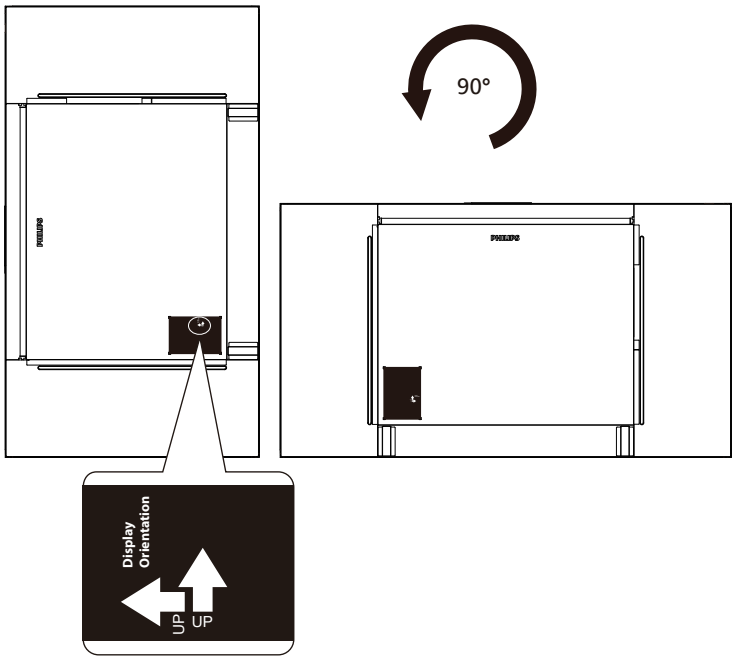
換気のために、上部、背面、左右に 100 mm のスペースを空けてください。



2.6. 縦長向きの設置について

本ディスプレイは、縦長向きに設置できます。

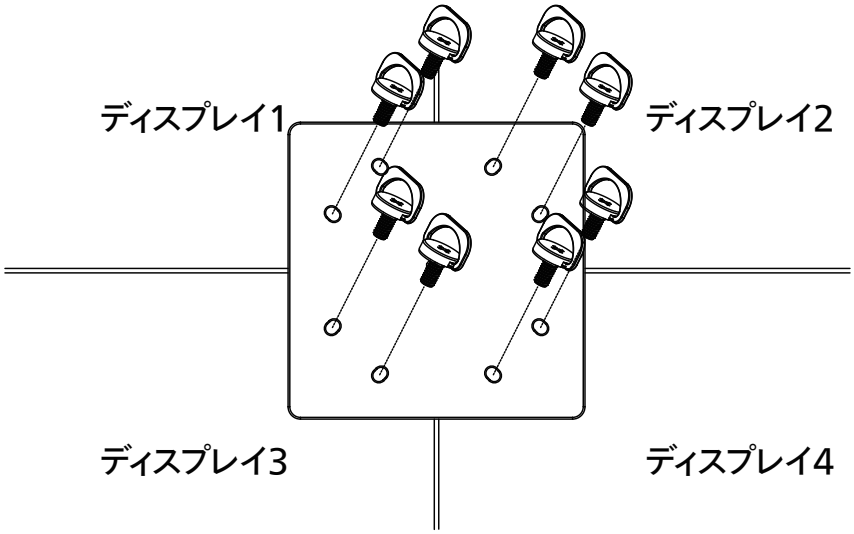
後ろから見て、ディスプレイを反時計回りに 90 度回転させてください。ディスプレイに向き合うと、「PHILIPS」ロゴが左側にくるはずです。定格銘板の矢印が上向きになるようにしてください。



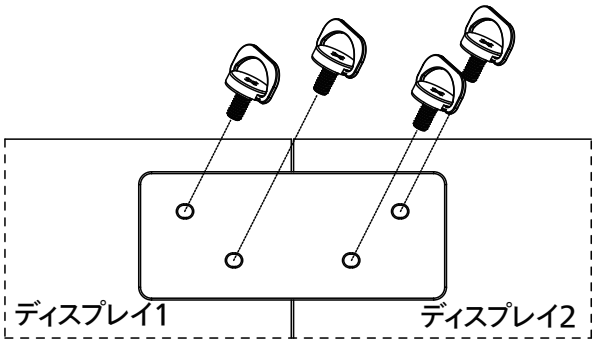
2.7. エッジアラインメントキットの使用法

2.7.1. エッジアラインメントキットを取り付ける

- エッジアラインメントキットを取り付ける前に、ビデオウォールのフレームにディスプレイを正しく取り付けてください。
- エッジアラインメントキットを取り付ける場合は、専門技術者にお問い合わせください。取り付けを専門技術者が行っていない場合、ディスプレイに損傷が発生した場合はお客様の責任となります。
- エッジアラインメントキットを簡単に取り付けるために、付属のつまみねじをご使用ください。
- 4 台のディスプレイを隣接させる場合は、「エッジアラインメントキット 1」をご使用ください。



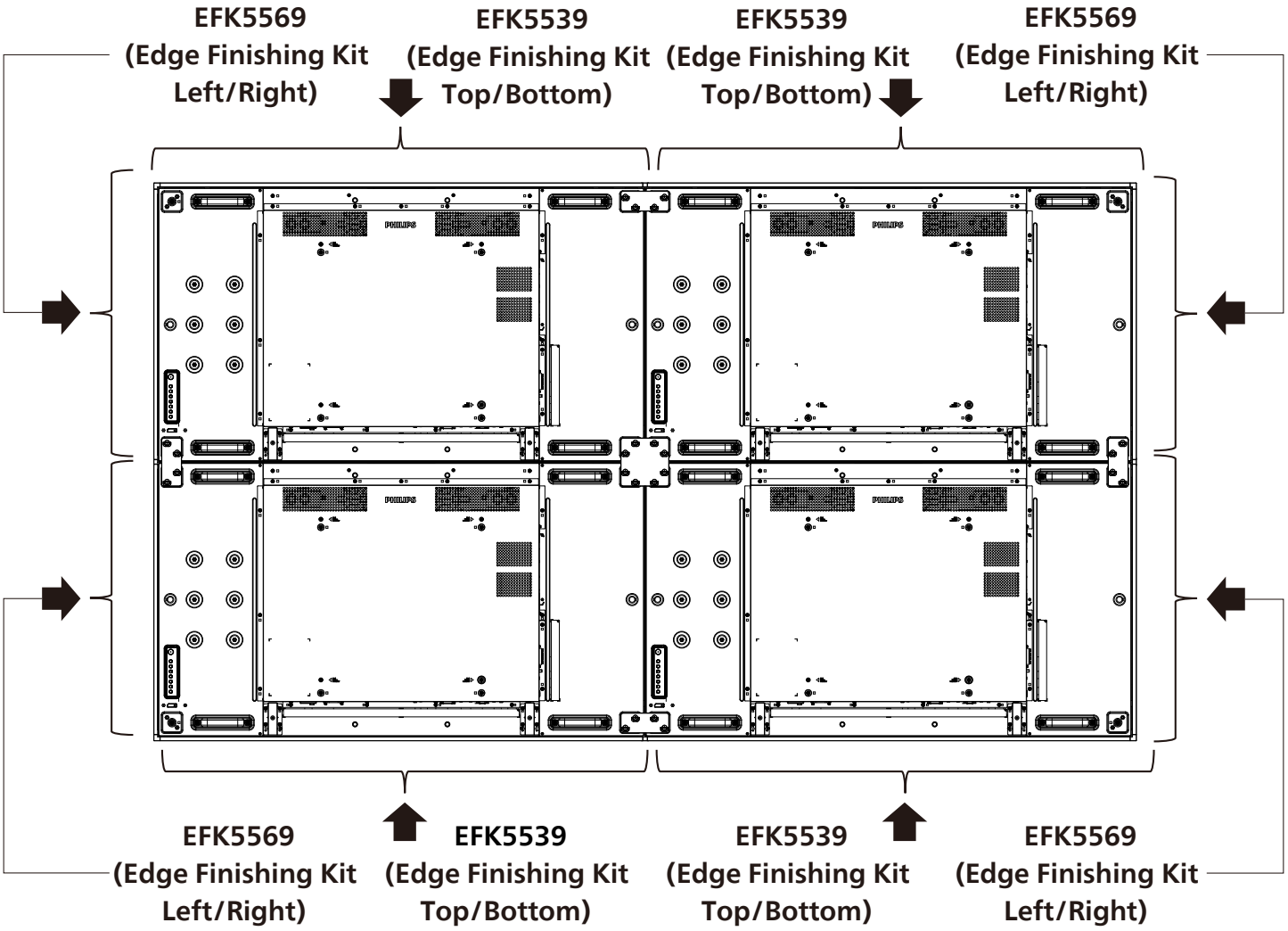
- 2 台のディスプレイを隣接させる場合は、「エッジアラインメントキット 2」をご使用ください。



注記：エッジアラインメントキットを取り付ける際は、専門の設置業者に問い合わせてください。専門業者による設置をしなかった場合、当社は設置に対する賠償責任を一切負いません。

2.8. エッジ仕上げキットの使用 (オプション)

ディスプレイを保護して外観を良くするために、エッジ仕上げキットを使用できます。

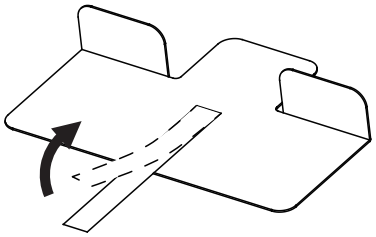


* 詳細については、キットのパッケージに付属する取り付けガイドを確認してください。

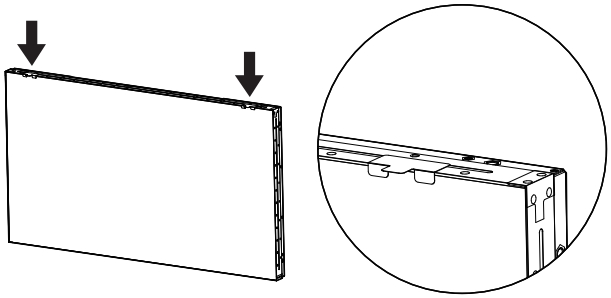
2.9. ギャップパッドの使用

ギャップパッドを使用して、ビデオウォールの取り付け中にカスケードディスプレイ間に適切な間隔を確保します。

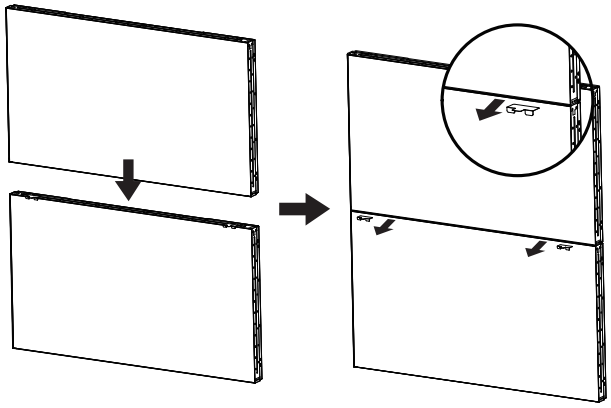
1. ギャップパッドからリリースシートを取り外します。



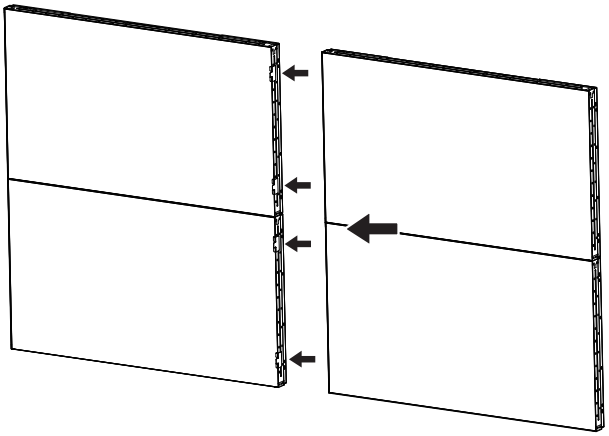
2. ギャップパッドをディスプレイの上面に貼り付け、他のディスプレイを重ねられるようにします。上面には 2 枚のギャップパッドを取り付けます。

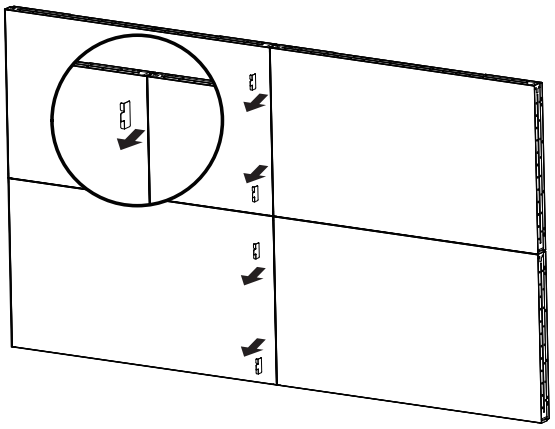


3. 上段のディスプレイを慎重に取り付けます。
   ディスプレイを取り付けたら、ディスプレイの間にギャップパッドを取り外すために十分な間隔があることを確認します。
   パッドを取り外すのが難しい場合は、ディスプレイの位置を調整して十分な間隔を確保します。



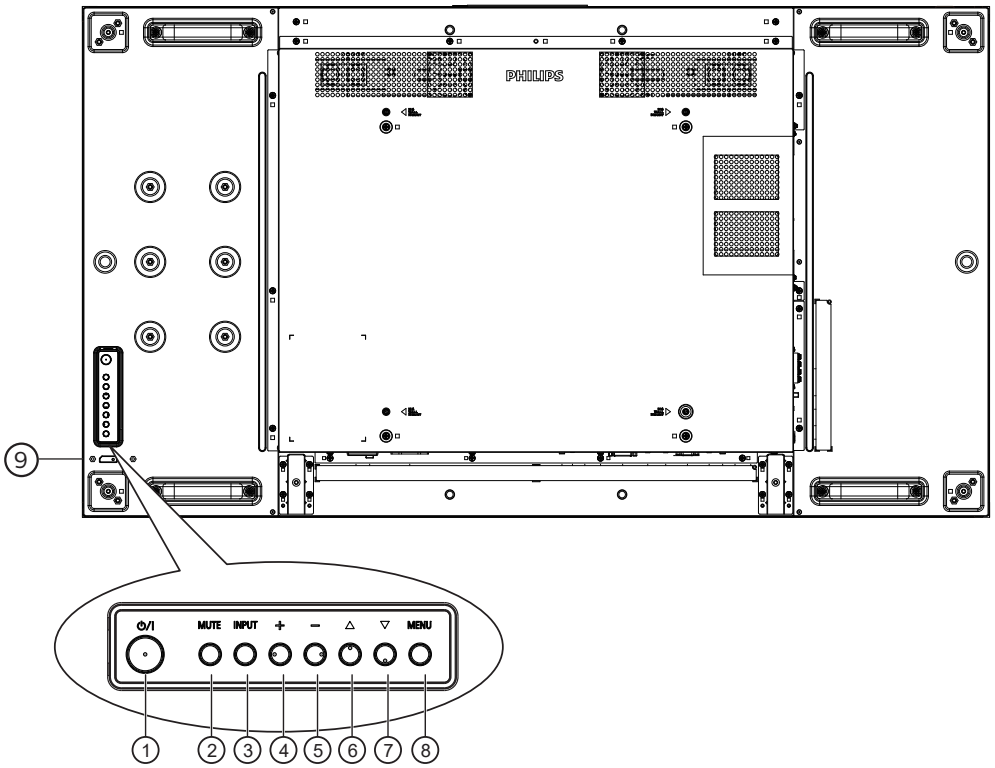
4. ギャップパッドを側面に取り付け、ステップ 3 と同じ作業を行います。





3. 各部の機能

3.1. コントロールパネル



① [⏻/|] ボタン
このボタンを押して、ディスプレイの電源を入れたり、ディスプレイをスタンバイモードにします。

② [消音] ボタン
このボタンを押して、音声をミュートしたり、音声を復元したりします。

③ [入力] ボタン
入力ソースを選択します。
OSD メニューで選択を確認します。

④ [＋] ボタン
OSD メニューが ON の時には調整を上げ、OSD メニューが OFF のときには、音声出力レベルを上げます。

⑤ [—] ボタン
OSD メニューが ON のときには調整を下げ、OSD メニューが OFF のときには音声出力レベルを下げます。

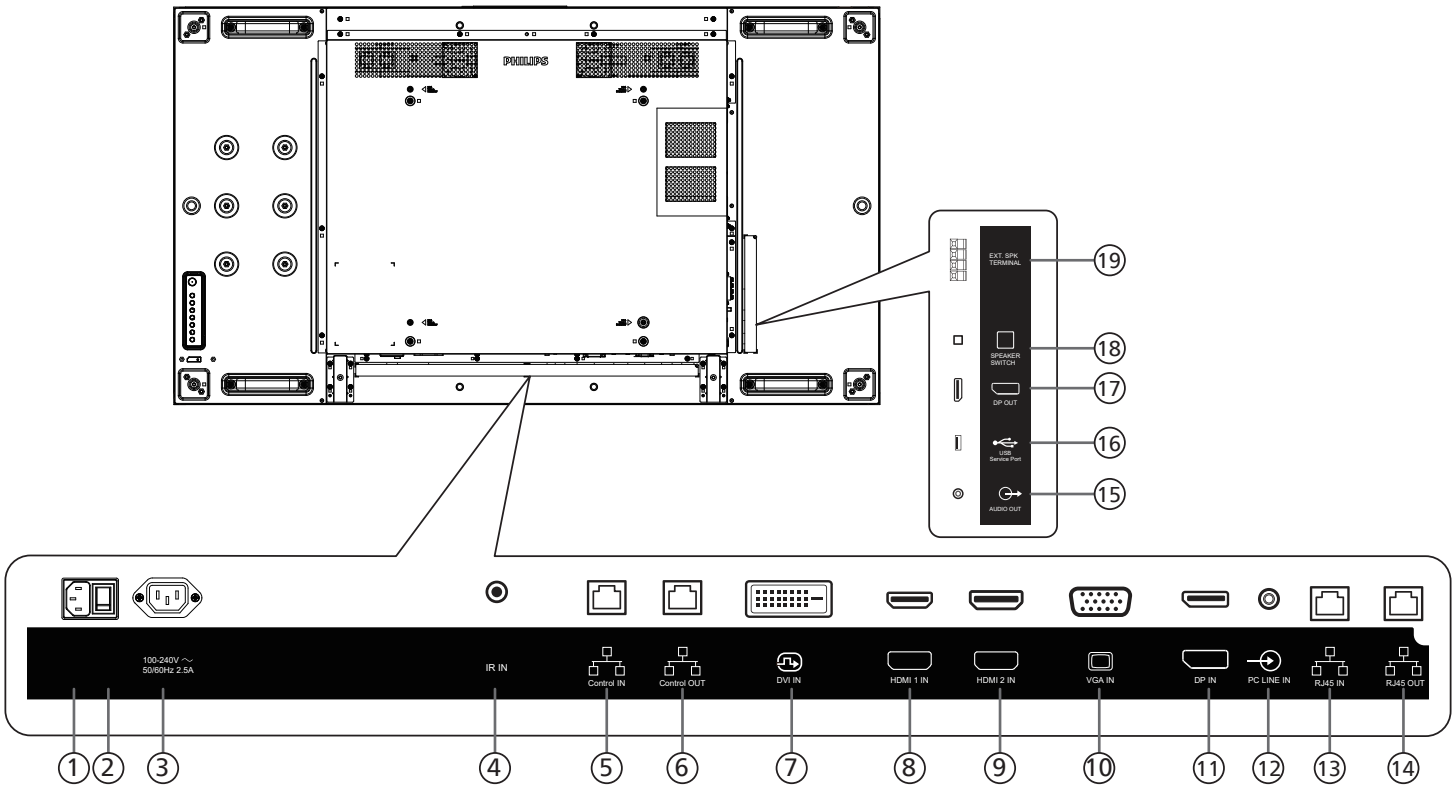
⑥ [▲] ボタン
OSD メニューがオンのときには選択した項目のレベルを 1 つ上げます。

⑦ [▼] ボタン
OSD メニューがオンのときには選択した項目のレベルを 1 つ下げます。

⑧ [MENU] (メニュー) ボタン
OSD メニューのときには前のメニューに戻ります。また、このボタンは、OSD メニューがオフのときに OSD メニューを有効にするために使用されます。

⑨ リモコンセンサーと電源状態インジケーター
- リモコンからの指令信号を受信します。
- 本ディスプレイの動作状態を表示します：
  - 本製品の電源がオンのとき緑色点灯する。
  - 本製品がスタンバイモードのとき赤色点灯する。
  - ディスプレイがスリープモードに入るとオレンジ色に点灯する。
  - { スケジュール } が有効な場合は、薄緑色が点滅し、赤色が常に点灯する。
  - 赤色点滅の場合は故障の検出を示す。
  - 本製品の主電源がオフの場合消灯する。

3.2. 入力 / 出力端子



① **AC 入力**
壁コンセントからの AC 電源入力。

② **主電源スイッチ**
主電源のオン / オフを切り替える。

③ **AC 出力**
メディアプレーヤーの AC 入力ジャックに AC 電力を供給します。

④ **IR 入力**
ループスルー機能向けの IR 信号入力。

メモ:
- このディスプレイのリモコンセンサーは、[IR 入力] が接続されている場合、動作を停止します。

⑤ **制御入力 /** ⑥**制御出力**
パススルー機能を制御するために、RJ45 コネクタに RS232 および IR 信号が組み込まれています。

⑦ **DVI 入力**
DVI ビデオ入力。

⑧ **HDMI 1 入力 /** ⑨ **HDMI 2 入力**
HDMI ビデオ / 音声入力。

⑩ **VGA 入力 (D-Sub)**
VGA ビデオ入力。

⑪ **DisplayPort 入力**
DisplayPort ビデオ入力。

⑫ **PC 線入力**
VGA ソース用の音声入力 (3.5mm ステレオ電話)。

⑬ **RJ45 入力 /** ⑭ **RJ45 出力**
コントロールセンターからリモコン信号を使用するための LAN 制御機能です。

⑮ **音声出力**
外部 AV デバイスへの音声出力。

⑯ **USB サービスポート**
USB ストレージデバイスを接続します。

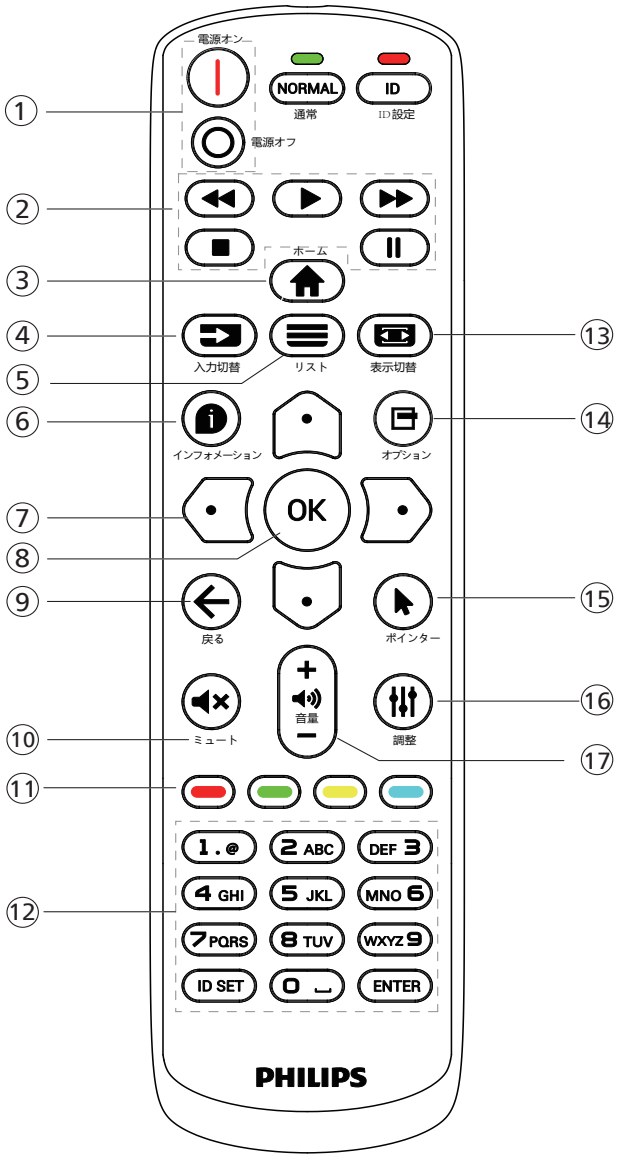
⑰ **DisplayPort 出力**
DisplayPort ビデオ出力。

⑱ **スピーカースイッチ**
内部スピーカーオン / オフスイッチ。

⑲ **スピーカー出力**
外部スピーカーへの音声出力。

3.3. リモコン

3.3.1. 一般の機能



① **[I/O] 電源ボタン**

[I] 電源をオンに切り替えます。
[O] 電源をオフに切り替えます。

② **[プレー] ボタン**

巻き戻し / 再生 / 早送り / 停止 / 一時停止。

③ **[⌂] ホームボタン**

OSD メニューにアクセスします。

④ **[⇨] ソースボタン**

入力ソースを選択します。[⌂] または [⛉] ボタンを押して、**USB、ネットワーク、HDMI 1、HDMI 2、DisplayPort、DVI-D、VGA** を選択します。[OK] ボタンを押して確認し、終了します。

⑤ **[☰] リストボタン**

予約済み。

⑥ **[ⓘ] 情報ボタン**

現在実行しているアクティビティの情報を表示します。

⑦ **[⌂][⛉][◁][▷] ナビゲーションボタン**

メニューを移動して項目を選択します。

⑧ **[OK] ボタン**

入力または選択を確定します。

⑨ **[←] 戻るボタン**

以前に選択したメニューに戻る、または以前の機能を終了します。

⑩ **[🔇] ミュートボタン**

消音機能をオン／オフで切り換えます。

⑪ **[▬] [▬] [▬] [▬] 色ボタン**

予約済み。

⑫ **[数字] ボタン**

ネットワーク設定にテキストを入力します。ID モードの ID を設定します。

⑬ **[▭] 形式ボタン**

ズームモードを変更します。

⑭ **[⎙] オプションボタン**

現在選択可能なオプションを操作します。画像および音声メニュー用。

⑮ **[↖] ポインターボタン**

予約済み。

⑯ **[⫶] 調整ボタン**

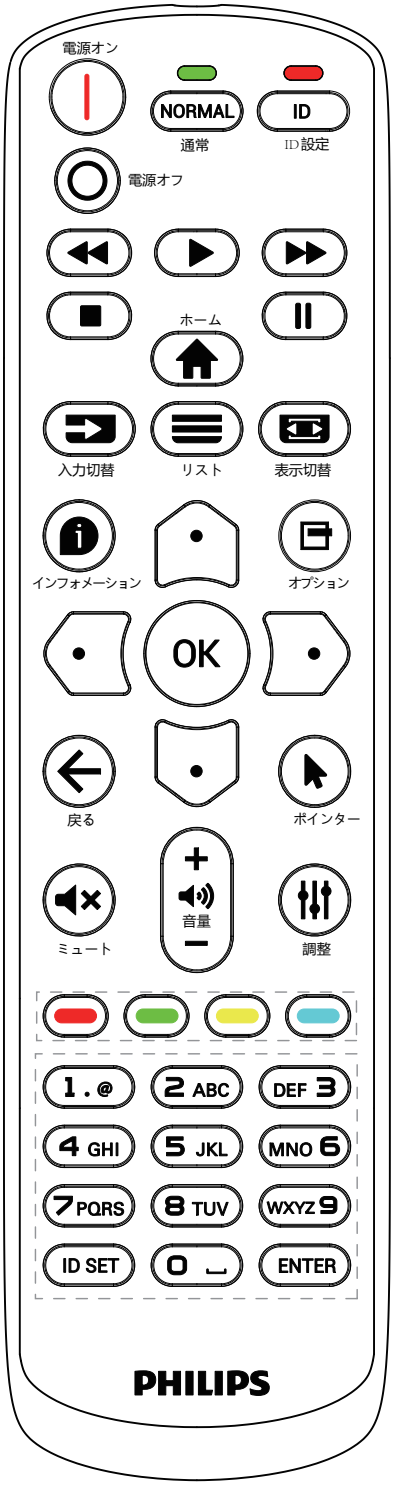
現在選択可能なオプションを操作します。画像および音声メニュー用。

⑰ **[−] [+] 音量ボタン**

音量を調整します。

3.3.2. リモコン ID

複数台のディスプレイを使用する場合は、リモコンの ID 番号を設定してください。



[ID] (ノーマル) ボタンを押してください。赤い LED が 2 回点滅します。

1. ID モードに移行するためには、[ID 設定] ボタンを 1 秒以上押してください。赤い LED が点灯します。
   [ID 設定] ボタンを再度押すと、ID モードを終了します。赤い LED が消えます。

[0] ~ [9] の数字を押して、コントロールしたいディスプレイを選択します。
例: ディスプレイ番号 1 では [0] と [1]、ディスプレイ番号 11 では [1] と [1] を押してください。
使用できる番号は [01] ~ [255] です。

2. 10 秒以内にどれかのボタンを押さないと、ID モードを離れます。
3. 間違ったボタンを押した場合には、赤い LED が消えて再度点灯してから 1 秒間待って、正しい数字を押してください。
4. [ENTER] ボタンを押して、承認してください。赤い LED が 2 回点滅して、消えます。

注記:

- [NORMAL] (ノーマル) ボタンを押してください。緑の LED が 2 回点滅して、ディスプレイが正常に作動していることを示します。
- ID 番号を選択する前に、それぞれのディスプレイで ID 番号を設定する必要があります。
- リモコンの「▌▌」(一時停止) キーを使用して、画面をフリーズします。リモコンの「▶」(再生) キーを使用して、画面のフリーズを解除します。
- 「フリーズ」機能は、VGA、HDMI、DVI、DP などの「リアル」ビデオソースにのみ適応できます。
- リモコンで操作するか、ビデオモードを変更すると、画面のフリーズが解除されます。

3.3.3. リモコンに乾電池を挿入する

以下に従い、乾電池を入れて下さい。

乾電池を取り付ける、または交換する :

(1). カバーを押してスライドさせ、開いてください。

(2). 極性 (+) と (-) を正しい位置にして乾電池を挿入してください。

(3). カバーを閉じてください。

注意:

乾電池を誤って使用すると、液漏れまたは爆発を引き起こす可能性があります。以下の指示に必ず従ってください:

- 正しい極性 (+ と -) で単 4 乾電池を挿入してください。.
- 違う種類の乾電池を一緒にして使用しないでください。
- 使用済みの乾電池と新しい乾電池を一緒に使用しないでください。そうしないと、液漏れが発生したり、乾電池の寿命が短くなったりする可能性があります。
- 切れた乾電池は乾電池収納部に液漏れする原因となるため、直ちに取り出してください。皮膚が負傷する可能性があるため、乾電池の漏れた酸に触れないでください。
- バッテリーを火や高温のオーブンに廃棄したり、バッテリーを機械的に押しつぶしたり切断したりすると、爆発する可能性があります。バッテリーを非常に高温の周囲環境に放置すると、爆発や可燃性の液体またはガスの漏れが発生する可能性があります。バッテリーを非常に低い空気圧にさらすと、爆発または可燃性の液体またはガスの漏れを引き起こす可能性があります。

注記:長期間にわたって使用しない場合は、乾電池収納部から乾電池を取り外してください。

3.3.4. リモコンの取り扱い

- リモコンを落下させたり、衝撃を与えたりしないでください。
- リモコンの内部に液体が入らないようにしてください。リモコンに水が入った場合は、乾いた布で直ちに拭いてください。
- 熱や蒸気を発生するものの近くに、リモコンを置かないでください。
- リモコンの乾電池を交換する以外の場合、リモコンを分解しようとしないでください。

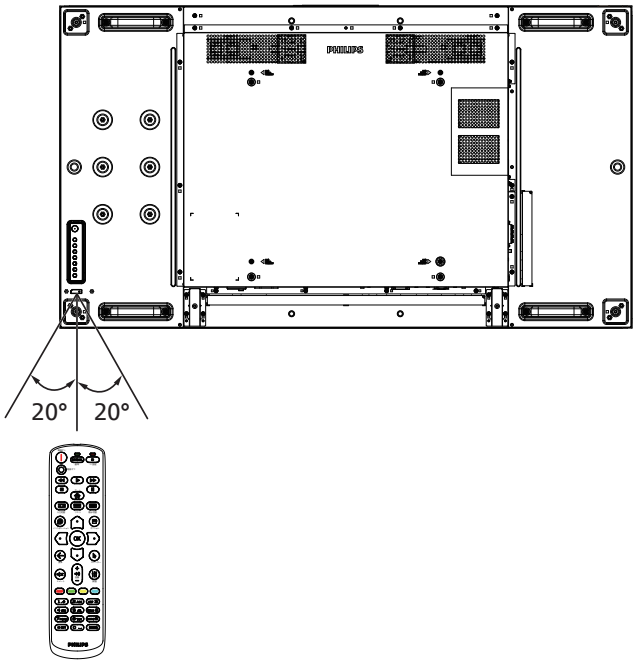
3.3.5. リモコンの動作範囲

ディスプレイのリモコンセンサーにリモコンを向けてください。

ディスプレイのリモコンセンサーから 5 m、左右 20 度の範囲内でリモコンを使用してください。

注記:

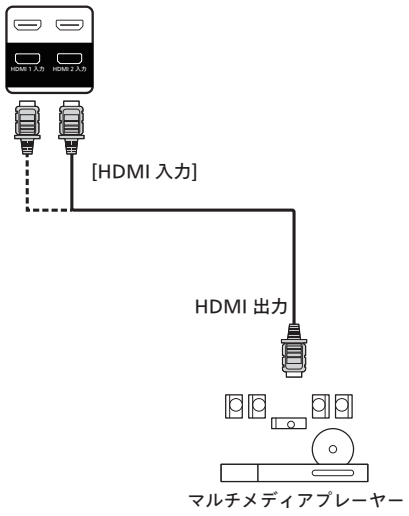
- ディスプレイのリモコンセンサーが直射日光や強い照明を浴びていたり、障害物が信号伝達を妨害していたりすると、リモコンが適切に作動しないことがあります。
- リモコンの機能を向上させるため、IR センサーケーブルを使用してください。(詳細については、IR 接続 24 を参照してください)。



4. 外部機器を接続する

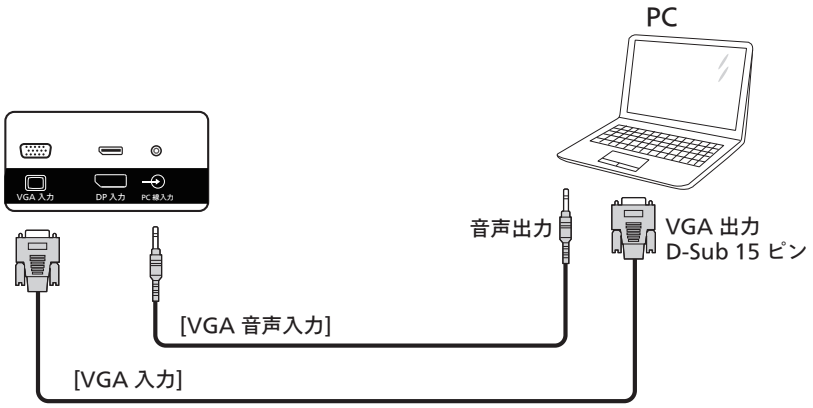
4.1. 外部機器の接続 (マルチメディアプレーヤー)

4.1.1. HDMI ビデオ入力の使用

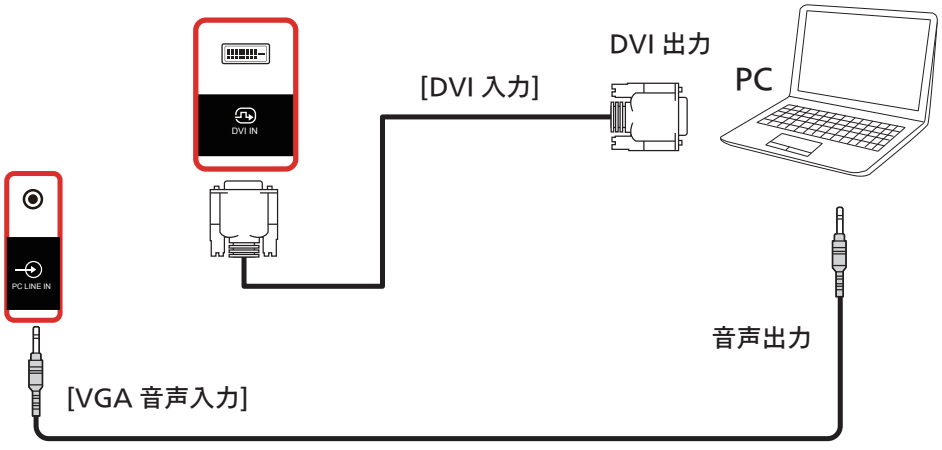


4.2. PC の接続

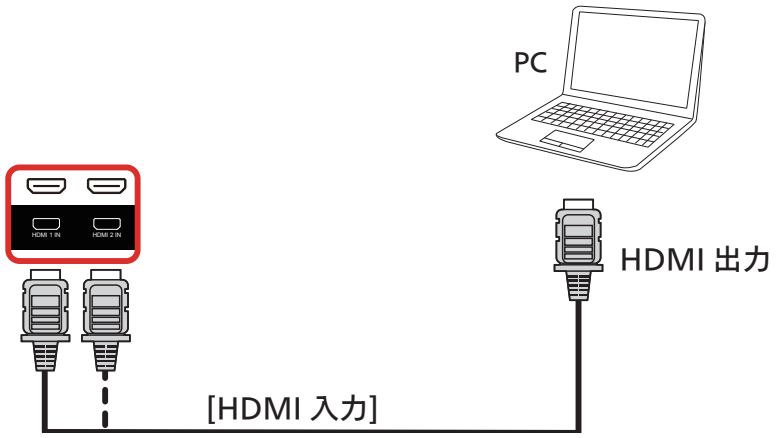
4.2.1. VGA 入力の使用



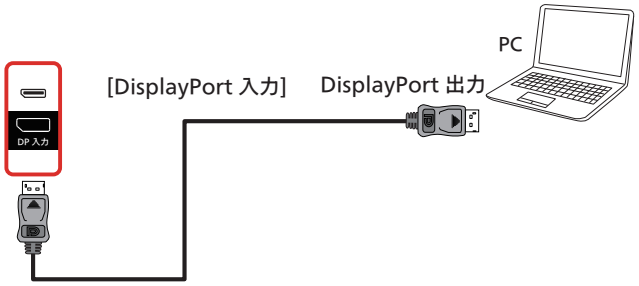
4.2.2. DVI 入力の使用



4.2.3. HDMI 入力の使用

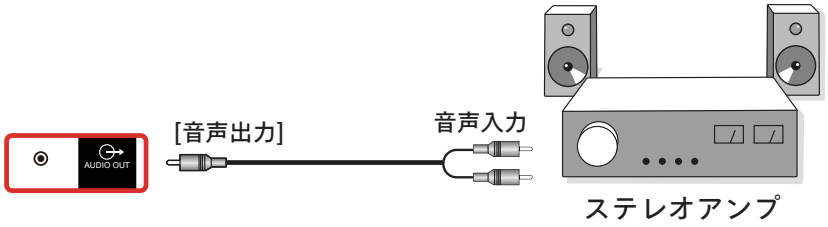


4.2.4. DisplayPort 入力の使用



4.3. オーディオ機器の接続

4.3.1. 外部オーディオ装置の接続

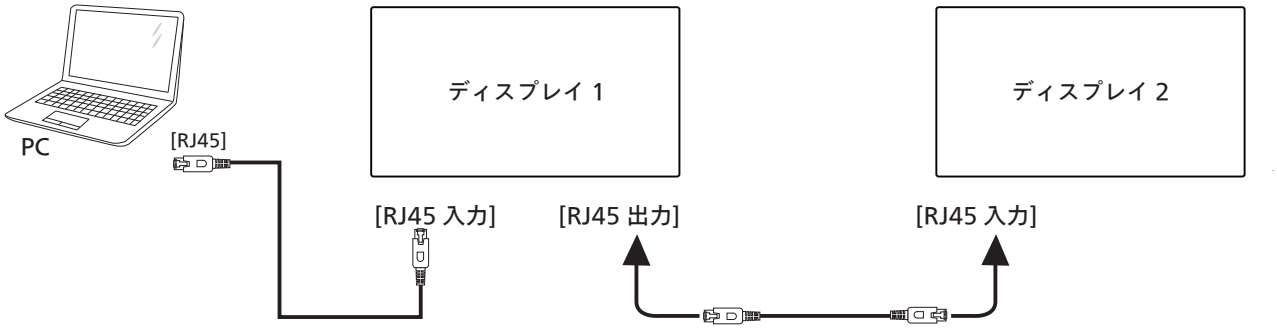


4.4. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接続する

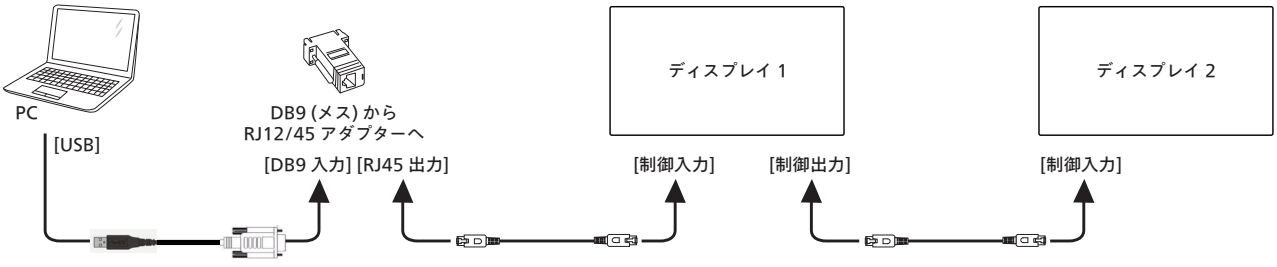
複数のディスプレイを相互接続し、メニューボードなどの用途向けに、デイジーチェーン構成を作成することが可能です。

4.4.1. ディスプレイコントロール接続

ノートパソコンの [RJ45] をディスプレイ 1 の [RJ45 入力] に接続し、ディスプレイ 1 の [RJ45 出力] コネクタをディスプレイ 2 の [RJ45 入力] コネクタに接続します。

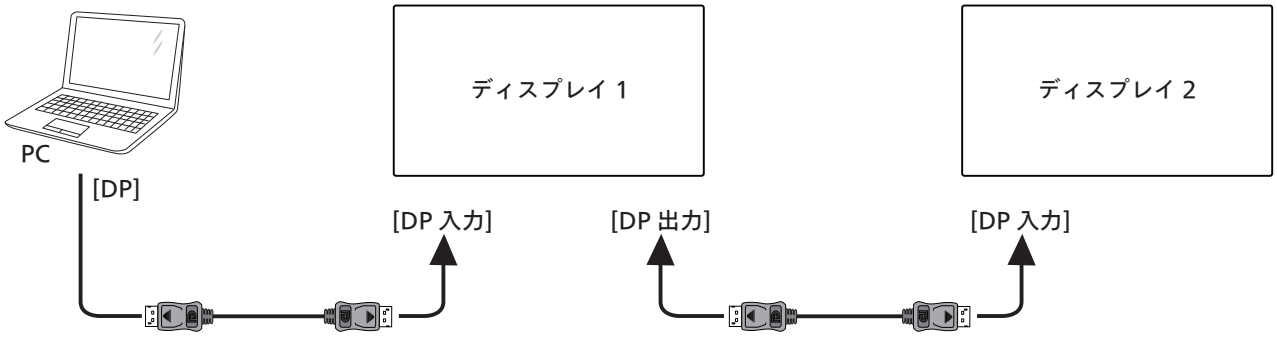


ノートパソコンの [USB] をアダプタの [D89 入力] に接続し、アダプタの [RJ45 出力] をディスプレイ 1 の [制御入力] に接続し、ディスプレイ 1 の [制御 出力] コネクタをディスプレイ 2 の [制御入力] コネクタに接続します。

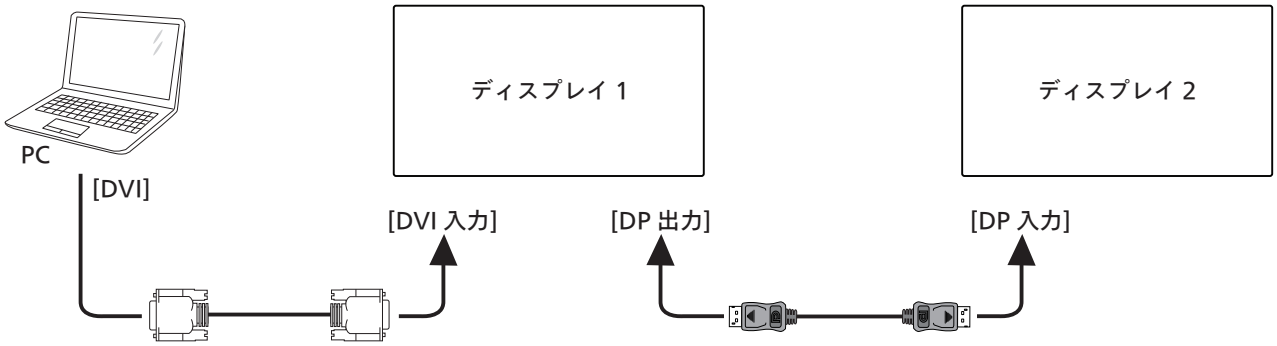


4.4.2. デジタルビデオ接続

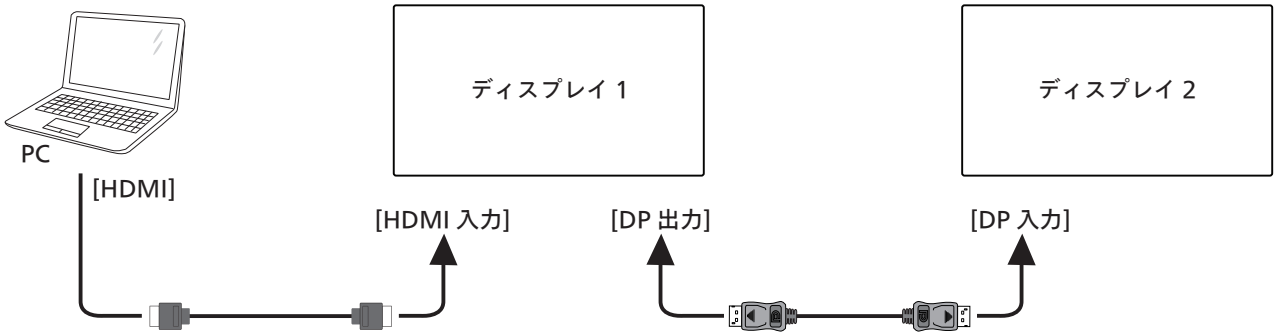
ノートパソコンの [DP] をディスプレイ 1 の [DP 入力] に接続し、ディスプレイ 1 の [DP 出力] コネクタをディスプレイ 2 の [DP 入力] コネクタに接続します。



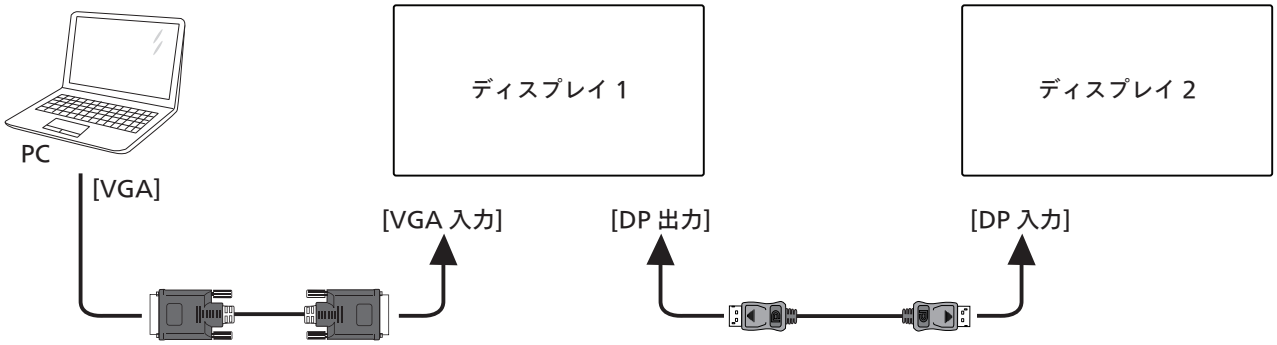
ノートパソコンの [DVI] をディスプレイ 1 の [DVI 入力] に接続し、ディスプレイ 1 の [DP 出力] コネクタをディスプレイ 2 の [DP 入力] コネクタに接続します。



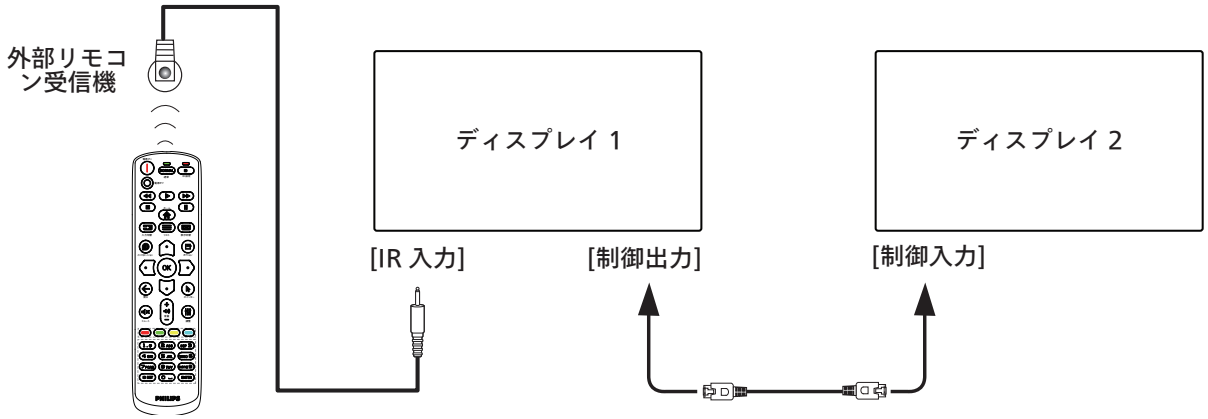
ノートパソコンの [HDMI] をディスプレイ 1 の [HDMI 入力] に接続し、ディスプレイ 1 の [DP 出力] コネクタをディスプレイ 2 の [DP 入力] コネクタに接続します。



ノートパソコンの [VGA] をディスプレイ 1 の [VGA 入力] に接続し、ディスプレイ 1 の [DP 出力] コネクタをディスプレイ 2 の [DP 入力] コネクタに接続します。



4.5. IR 接続



注記:

1. このディスプレイのリモコンセンサーは、ジャック [IR 入力] が接続されると、動作を停止します。
2. IR ループスルー接続は、最大 9 台のディスプレイをサポートすることができます。
3. 制御入力 / 出力接続を介したデイジーチェーンの IR は、最大 9 台のディスプレイをサポートできます。

5. 取り扱い

注記: この章で説明されている操作ボタンは、特に記述のない限りリモコン上にあるボタンを指します。

5.1. 接続されたビデオソースから鑑賞する

1. [ ] 入力切替ボタンを押します。
2. [ ] または [ ] ボタンを押して、デバイスを選択し、次に [OK] ボタンを押します。

5.2. 画像フォーマットを変更する

ビデオソースに合わせて画像フォーマットを変更することができます。それぞれのビデオソースに対して、使用可能な画像フォーマットがあります。

使用可能な画像フォーマットはビデオソースによって異なります。

1. [ ] 形式ボタンを押して、画像形式を選択します。
   - PC モード:{ フル画面 } / {4:3} / {1:1} / {16:9}/ {21:9}/ { カスタム }。
   - ビデオモード:{ フル画面 } / {4:3} / {1:1} / {16:9} / {21:9}/ { カスタム }。

6. OSD メニュー

オンスクリーンディスプレイ (OSD) 構造の全体図を以下に示します。この全体図は、ディスプレイをさらに調整する場合の参照として使用できます。

6.1. OSD メニューをナビゲートする

6.1.1. リモコンを使用して OSD メニューをナビゲートする



1. リモコン上の [ ] ボタンを押して OSD メニューを表示します。
2. [ ] ボタンまたは [ ] ボタンを押して、調整したい項目を選択します。
3. [OK] または [ ] ボタンを押してサブメニューに入ります。
4. サブメニュー内では、[ ] ボタンまたは [ ] ボタンを押して、項目を切り換えて、[ ] ボタンまたは [ ] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合には、[OK] または [ ] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [ ] ボタンを押して直前のメニューに戻るか、または [ ] ボタンを押して OSD メニューを離れます。

注記:

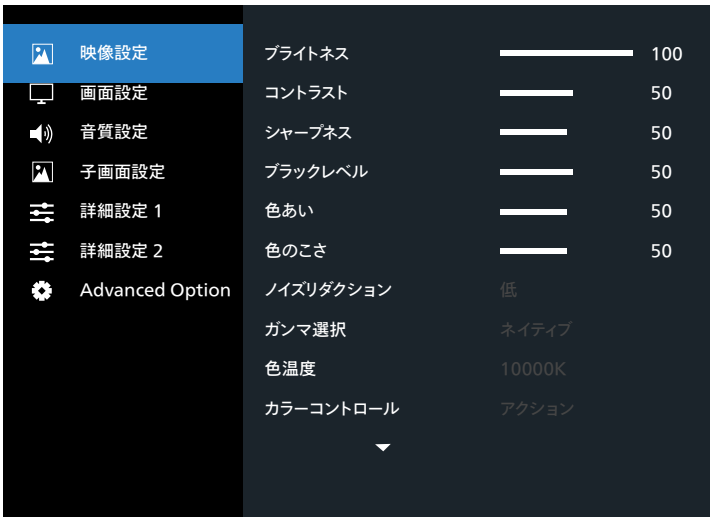
- 画面に OSD メニューが表示されない場合は、[ ] を押して { スマートピクチャー } のメニューを表示します。
- 画面に OSD メニューが表示されない場合は、[ ] を押して { オーディオソース } のメニューを表示します。

6.1.2. ディスプレイのコントロールボタンを使用して、OSD メニューをナビゲートする

1. [メニュー] ボタンを押して、OSD メニューを表示します。
2. [＋] ボタンまたは [ー] ボタンを押して、調整したい項目を選択します。
3. [＋] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
4. サブメニュー内では、[▲] ボタンまたは [▼] ボタンを押して、項目を切り換えて、[＋] ボタンまたは [ー] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合には、[＋] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [メニュー] ボタンを押して直前のメニューに戻るか、または [メニュー] ボタンを数回押して OSD メニューを離れます。

6.2. OSD メニューの概要

6.2.1. 映像設定メニュー



ブライトネス (映像設定)

画像および背景画面の全体的な輝度 (バックライト) を調整します。

コントラスト

入力信号に対する画像のコントラスト比を調整します。

シャープネス

この機能により、任意のタイミングにおいて、デジタル的に鮮明な画像を維持することができます。

お好みの鮮明な画像またはソフトな画像を取得したり、各画像設定モードを個別に設定するために調整することができます。

ブラックレベル

背景用の画像の輝度を調整します。

注記:sRGB 映像設定モードは標準であり、変更することができません。

色あい (色相)

画像の色合いを調整します。

+ ボタンを押すと、肌色が緑色に変わります。

- ボタンを押すと、肌色が紫色に変わります。

注記:ビデオモードのみ。

色のこさ (彩度)

画像の色のこさを調整します。

+ ボタンを押して、色のこさを増やします。

- ボタンを押して、色のこさを減らします。

注記：ビデオモードのみ。

ノイズリダクション

ノイズリダクションレベルを調整します。

ガンマ選択

ディスプレイガンマを選択します。信号入力の輝度性能曲線を指します。{ ネイティブ } / {2.2} / {2.4} / {S gamma} / {D-image} から選択します。

注記：sRGB 映像設定モードは標準であり、変更することができません。

色温度

色温度を調整するために使用します。

色温度が下がると画像は赤みを帯び、色温度が上がると青みを帯びます。

CCT	10000º K	9300 º K	7500 º K	6500 º K	5000 º K
X	0.279 ± 0.030	0.283 ± 0.030	0.299 ± 0.030	0.313 ± 0.030	0.346 ± 0.030
Y	0.292 ± 0.030	0.298 ± 0.030	0.315 ± 0.030	0.329 ± 0.030	0.359 ± 0.030

CCT	4000 º K	3000 º K	ネイティブ	ユーザー 1	ユーザー 2
X	0.382 ± 0.030	0.440 ± 0.030	0.28 ± 0.030	0.28±0.030	0.28±0.030
Y	0.384 ± 0.030	0.403 ± 0.030	0.29±0.030	0.29±0.030	0.29±0.030

注記：

- カラーバーを使って、赤、緑および青の色のこさレベルを調整します。
- ユーザー 1 モードでは、R/B/G の調整範囲は 0 ～ 255 です。
- ユーザー 2 モードでは、色温度調整範囲は 3000k ～ 10000k です。

スマートピクチャー

PQ 設定

PC モード：{ 標準 }/{ 高輝度 }/{sRGB}。

ビデオモード：{ 標準 }/{ 高輝度 }/{ シネマ }。

スマートパワー

スマートパワー制御は、輝度制御に相対的ではありません：

1. 初期設定輝度
   75 (0 ～ 100 の範囲)。
   最大消費電力の 70%の消費電力になります。
2. スマートパワー
   オフ：適応されません
   中：現在設定に対して消費電力を 80%削減。
   高：現在設定に対して消費電力を 65% 削減。

カラースペース

カラースペース設定

RGB PC/RGB ビデオ /REC601/REC702/ 自動。

ローカルディミング

ローカルディミング機能のオン / オフを切り替えます。

オーバースキャン

本ディスプレイの画像領域を変更します。

オン：表示領域を約 95% に設定します。

オフ：表示領域を約 100% に設定します。

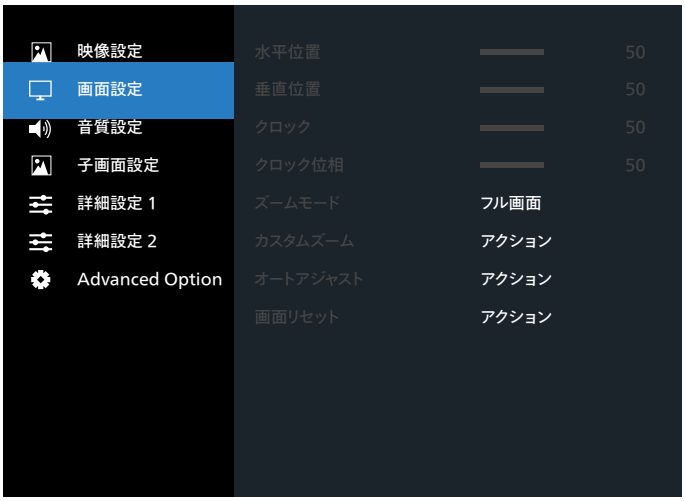
Uniformity

Uniformity 機能のオン / オフを切り替えます。

映像リセット

映像設定メニューですべての設定をリセットします。

6.2.2. 画面設定メニュー



水平位置

LCD の表示領域内に画像の水平位置を制御します。

+ ボタンを押して、画面を右に移動します。

- ボタンを押して、画面を左に移動します。

垂直位置

LCD の表示領域内に画像の垂直位置を制御します。

+ ボタンを押して、画面を上に移動します。

- ボタンを押して、画面を下に移動します。

クロック

+ ボタンを押す、画面上の画像の幅が右に拡張します。

- ボタンを押す、画面上の画像の幅が左に縮小します。

注記：VGA 入力のみ。

クロック位相

この設定を増やすまたは減らすことにより、焦点、鮮明度、および、画像の安定性を改善します。

注記：VGA 入力のみ。

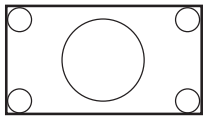
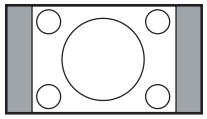
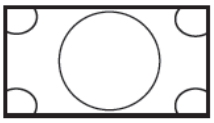
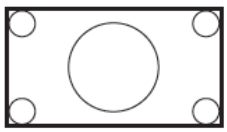
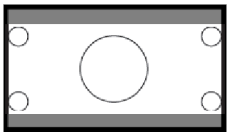
ズームモード

PC モード：{ フル画面 } / {4:3} / {1:1} / {16:9}/ {21:9}/ { カスタム }。

ビデオモード：{ フル画面 } / {4:3} / {1:1} / {16:9}/ {21:9}/ { カスタム }。

* ズームモード設定は、入力により定義されます。マルチウィンドウで入力する場合、設定は同じ入力を持つウィンドウに適用されます。

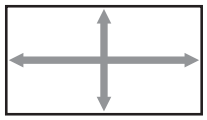
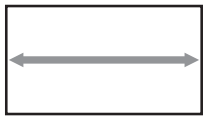
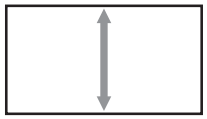
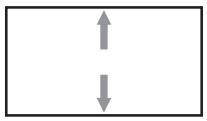
情報 OSD には、最新設定が表示されます。

	**フル画面** このモードでは、全画面表示を使用して、16:9で送信された映像を正しい映像比に戻します。
	**4:3** この映像は 4:3 フォーマットで再現され、映像の両側には黒い部分が表示されます。
	**1:1** このモードでは、オリジナルの画像サイズを変えることなく、画面に画素ごとの画像を表示します。
	**16:9** この映像は 16:9 フォーマットで再現され、上下には黒い部分が表示されます。
	**21:9** 画像は 21:9 フォーマットで再現され、上下に黒い部分が表示されます。
	カスタム 選択すると [カスタムズーム] サブメニューでカスタムズーム設定を適用します。

カスタムズーム

この機能は、表示したい画像に合わせるため、ズーム設定をカスタマイズするのに使用できます。

注記: この項目は { ズームモード } 設定が { カスタム } に設定されているときにのみ機能します。

	**ズーム** 画像の縦と横のサイズを同時に拡大します。
	**水平ズーム** 画像の水平サイズのみを拡大します。
	**垂直ズーム** 画像の垂直サイズのみを拡大します。
	**水平位置** 画像の水平位置を左右に移動します。
	**垂直位置** 画像の垂直位置を上下に移動します。

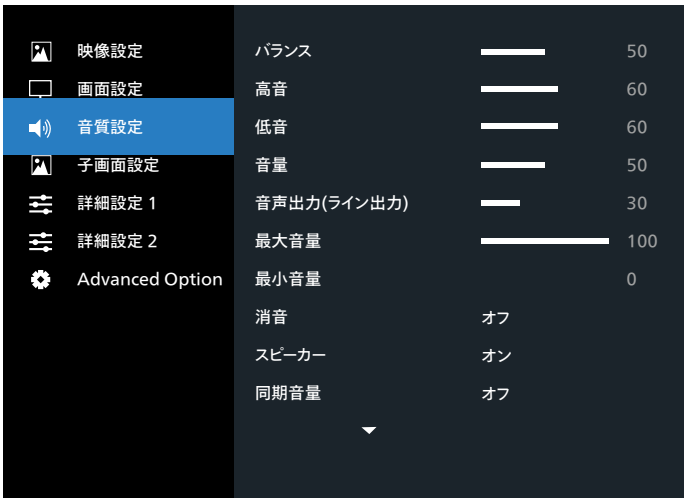
オートアジャスト

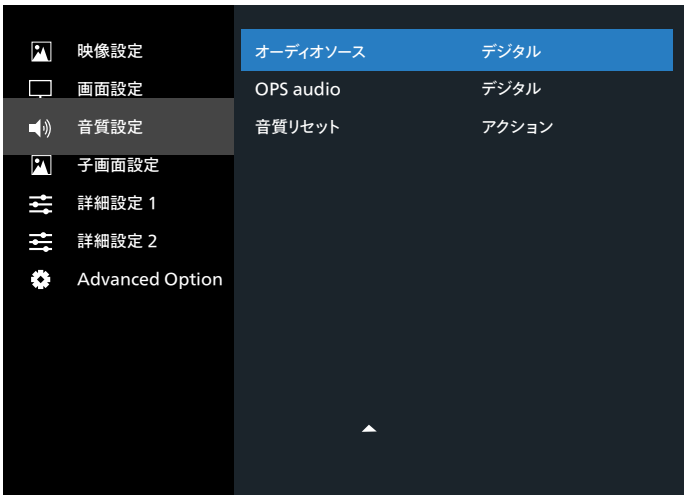
「設定」を押すと、水平位置、垂直位置、クロック、位相を自動的に検出して調整します。

画面リセット

画面設定メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

6.2.3. 音質設定メニュー





バランス

左右の音声出力のバランスの強弱を調整します。

高音

高音の増減を調整します。

低音

低音の増減を調整します。

音量

音声出力レベルを上げたり下げたりします。

音声出力 (ライン出力)

ライン出力レベルを上げたり下げたりします。

最大音量

最大音量設定に独自の制限を付けて調整します。これにより、音量が大きく再生されすぎるのを停止します。

最小音量

最小音量設定に独自の制限を付けて調整します。

消音

消音機能のオン／オフを切り替えます。

スピーカー

内蔵スピーカーをオン / オフにします。

注記:この機能は、「オーディオ出力同期」がオンの場合にのみ使用できます。

同期音量

音声出力 (ライン出力) の音量調整機能を有効 / 無効にして、内部スピーカーと同期しますが、PD 内部スピーカーの音は強制的に消音されます。

オーディオソース

オーディオ入力ソースを選択します。

アナログ:オーディオ入力からの音声。

デジタル:HDMI/DVI オーディオからの音声

Displayport: DP からの音声。

OPS Audio

以下から OPS audio を選択します :

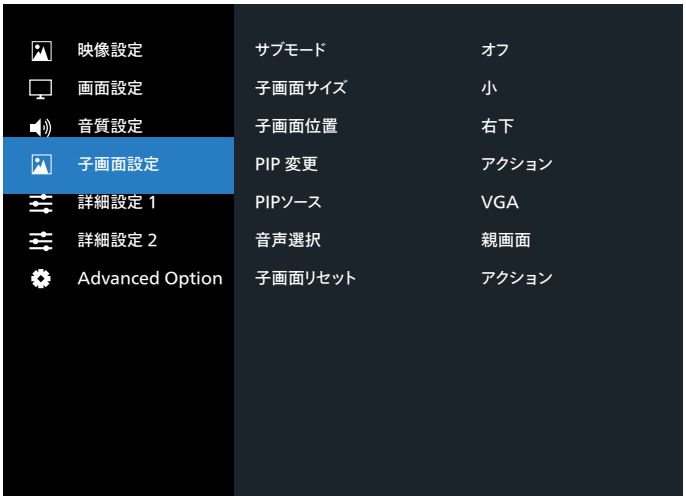
- { デジタル }-(デフォルト)
- { アナログ }

* OPS モデルのみ

音質リセット

音質設定メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

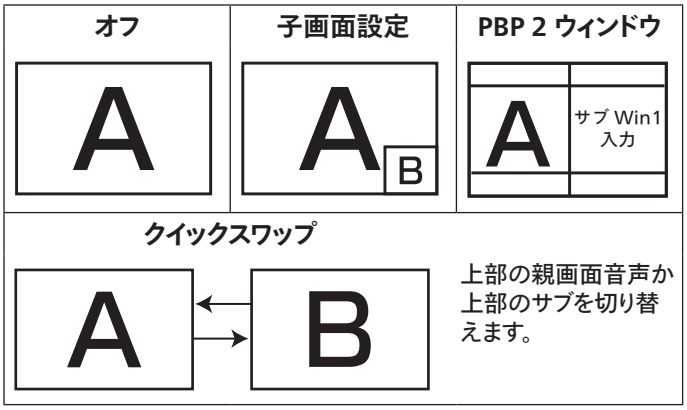
6.2.4. 子画面設定メニュー



サブモード

サブモードを選択します。

こちらより選択します:{ オフ } / {PIP} / {PBP} / { クイックスワップ }。



子画面サイズ

PIP (子画面設定) モードでサブピクチャーのサイズを選択します。

こちらより選択します:{ 小 } / { 中 } / { 大 }。

子画面位置

PIP (子画面設定) モードでサブピクチャーの位置を選択します。

こちらより選択します:{ 右下 } / { 左下 } / { 右上 } / { 左上 }/ { 中央 } / { カスタム }。

PIP 変更

親画面音声と PIP/PBP/ クイックスワップ入力信号を切り替えます。

PIP ソース

サブピクチャーの入力信号を選択します。

注記:HDMI1 と HDMI2 は PIP モードでは共存できません。

	HDMI1	HDMI2	DVI	DisplayPort	VGA	OPS
HDMI1	O	X	O	O	O	O
HDMI2	X	O	O	O	O	O
DVI	O	O	O	O	O	O
DisplayPort	O	O	O	O	O	O
VGA	O	O	O	O	O	O

音声選択

サブモードのオーディオソースを選択します。

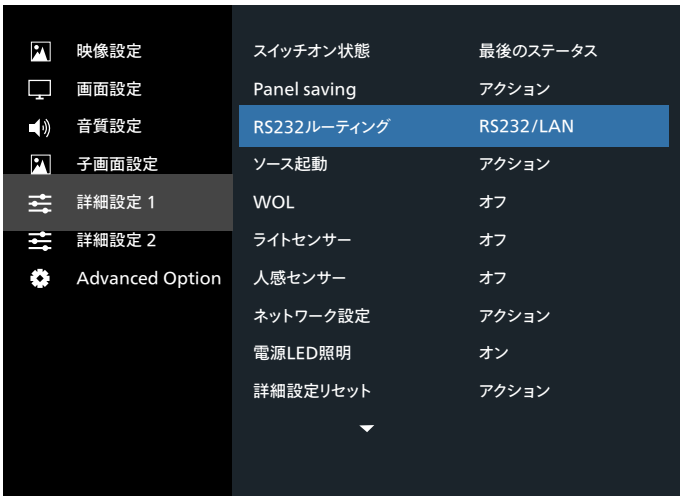
- { 親画面 } - メインピクチャーから音声を選択します。
- { サブ } - サブピクチャーから音声を選択します。

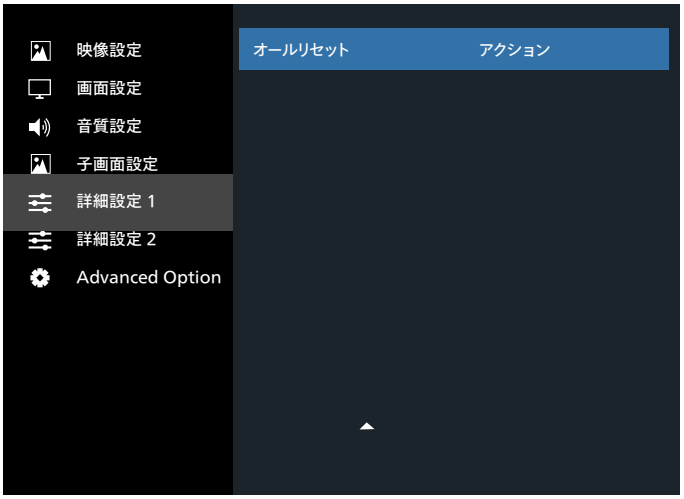
子画面リセット

子画面設定メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

- PIP 機能は、以下の表のように特定の信号ソースの組み合わせでのみ使用できます。
- PIP 機能の可用性は、使用される入力信号の解像度によっても変わりまする。

6.2.5. 詳細設定 1 メニュー





スイッチオン状態

次回に電源コードを接続する際のディスプレイの状態を選択します。

- { 電源オフ } - 電源コードが壁コンセントに接続されているとき、ディスプレイはオフのままになります。
- { 強制オン } - 電源コードが壁コンセントに接続されているとき、ディスプレイはオンのままになります。
- { 最後のステータス } - 電源コードを外して再び取り付けると、ディスプレイは前の電源ステータス (オン / オフ / スタンバイ) に戻ります。

Panel Saving

パネルの焼き付きやゴーストの発生を抑えるために、Panel saving を有効にしてください。

- { ブライトネス } - { オン } を選択すると、画像の輝度が適切なレベルに減少されます。選択されているとき、映像設定メニューのブライトネス設定は使用できなくなります。
- { ピクセルシフト } - 画像のサイズを変更したり、上下左右に画像をずらすための時間間隔を設定します{自動}/{10 ～ 900} 秒 /{オフ}
- { 冷却ファン } - ファン速度 { オフ }/{ 自動 }/{ 低 }/{ 中 }/{ 高 } を選択します。

RS232 ルーティング

ネットワーク制御ポートを選択します。

こちらより選択します:{RS232/LAN}/ {OPS RS232/LAN}。

ソース起動

起動時のソース選択を選択します。

入力:起動時の入力ソースを選択します。

WOL

Wake on LAN 機能をオンまたはオフを選択します。

こちらより選択します:{ オフ } / { オン }

ライトセンサー (Philips アクセサリー CRD41 外部センサーボックスが必要です)

環境の明るさに応じて、バックライト調整のオンまたはオフへの切り替えを選択します。

こちらより選択します:{ オフ } / { オン }

人感センサー (Philips アクセサリー CRD41 外部センサーボックスが必要です)

人感センサーは、人がディスプレイに近づいているかどうかを検出することができます。

設定された時間内に何も検出されない場合、ディスプレイはバックライトをオフに切り替えます。

人がディスプレイに近づいてくると、ディスプレイはバックライトをオンに切り替えます。

オプションは次の通りです:

- { オフ } (デフォルト)、{10 分 }、{20 分 }、{30 分 }、{40 分 }、{50 分 }、{60 分 }

ネットワーク設定

- DHCP オン -> IP アドレス / サブネットマスク / デフォルトゲートウェイを変更できません
- DHCP オフ -> IP アドレス / サブネットマスク / デフォルトゲートウェイを手動で入力できます。

電源 LED 照明

電源表示 LED のオンまたはオフの設定を選択します。

通常使用の場合は、{ オン } を選択してください。

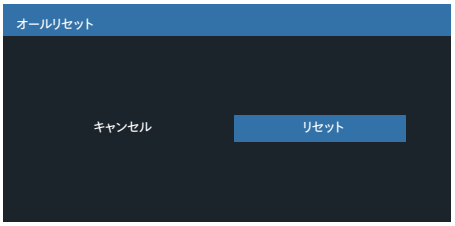
詳細設定リセット

詳細設定 1 メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

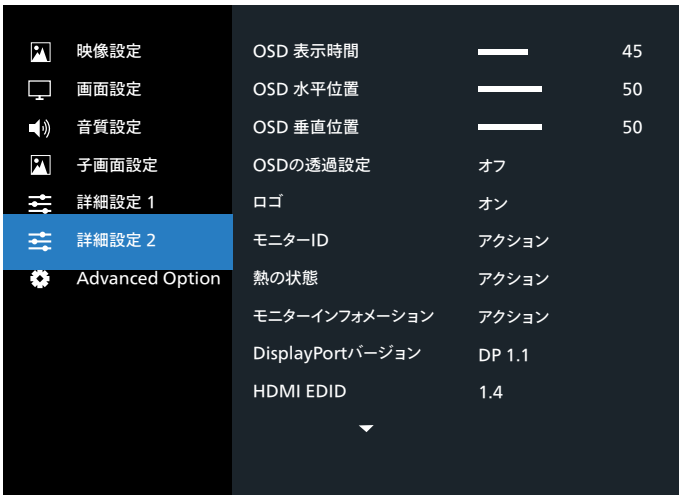
オールリセット

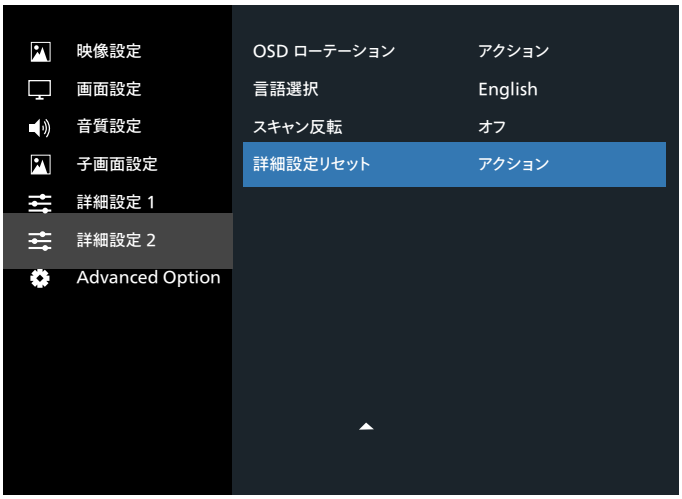
OSD メニューの中のすべての設定、{ 映像設定 }、{ 画面設定 }、{ 音質設定 }、{ 子画面設定 }、{ 詳細設定 1}、{ 詳細設定 2}、{Advanced option} を工場出荷時の値にリセットします。

[◁] または [▷] ボタンを押して { リセット } を選択し、[OK] を押してリセットします。



6.2.6. 詳細設定 2 メニュー





OSD 表示時間

OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューが画面に表示される時間を設定します。

オプションは次の通りです:{0 ～ 120} 秒。

*{0} は、自動的に消えません。

OSD 水平位置

OSD メニューの水平位置を調整します。

OSD 垂直位置

OSD メニューの垂直位置を調整します。

OSD の透過設定

OSD の透明度を調整します。

- { オフ } - 透明度オフ。
- 20/40/60/80/100。

ロゴ

ディスプレイをオンに切り替えるときのロゴの画像の有効または無効を選択します。

オプションは次の通りです:

- { オフ } (デフォルト)
- { オン }

モニター ID

RS232C 接続経由で本製品を制御するための ID 番号を設定します。本製品を複数台接続する場合には、各ディスプレイに一意の ID を割り当てることが必要です。モニター ID の番号範囲は 1 ～ 255 の間です。

オプションは次の通りです。{ モニターグループ } / {Tiling マトリックス } / { 自動 ID}

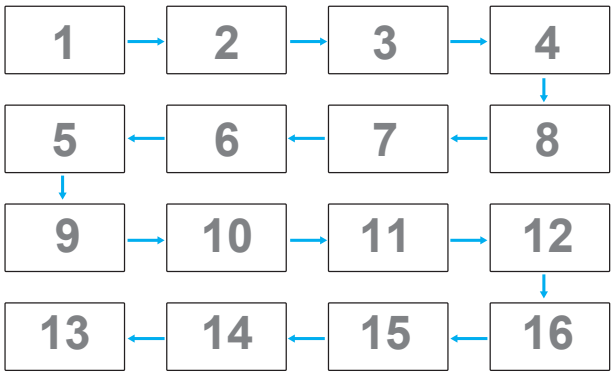


- { モニターグループ }

  オプションは次の通りです:{1-254}
  {1 ～ 254} – { モニターグループ } はサポートされます。デフォルト設定は 1 です。
- {Tiling マトリックス }

  以下の例では、tiling マトリックスは 4 として設定されます。
  設置されているディスプレイの数やその他の条件によっては、スプリッターまたは信号拡張が必要になる場合があることに注意してください。設置の詳細な手順については、サービスエージェントにご相談ください。
- Tiling マトリックスの番号範囲は 1 ～ 15 の間です。1 がデフォルト設定です。{ 自動 ID} 設定機能では、{Tiling マトリックス } 設定に従って接続されたマシンの { モニター ID} を設定することができます。

  例: Tiling マトリックスは 4 として設定されます。



- { 自動 ID}

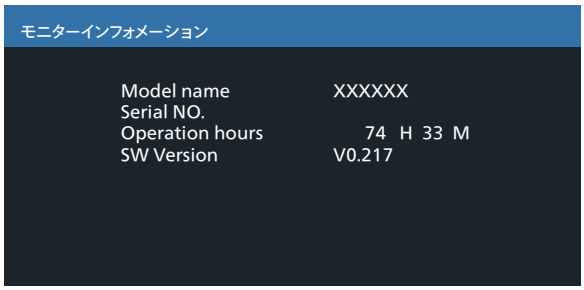
  オプションは次の通りです。{ 開始 } / { 終了 }。デフォルトは { 終了 } です。
  - 開始オプションに切り替えると、マシンの ID は現在の ID から前に戻って設定されます。
  - 設定が完了すると、オプションは自動的に終了します。
  - この機能を使用するには、すべてのマシンを RS232 ケーブルでシリアル接続し、その制御ポートを RS232 に設定します。

熱の状態

この機能により、いつでも温度状態を確認することができます。

モニターインフォメーション

モデル番号、シリアル番号、動作時間、ソフトウェアバージョンを含め、ディスプレイに関する情報を表示します。



DisplayPort バージョン

DisplayPort はモードをサポートします。

オプションは次の通りです：

- {DP 1.1} (デフォルト)：DP 1.1 シングルストリーム (複製モード)。
- {DP 1.2}: DP 1.2。

注記：

1. DisplayPort バージョンは、すべてのデイジーチェーンディスプレイについて同一に設定しなければなりません。
2. 3840x2160 の場合、ドットクロックのタイミングは 533 MHz である必要があります。
3. DP 1.1 は 4K/60 Hz タイミングをサポートしていません。

HDMI EDID

HDMI EDID タイプをの切り替えます：{HDMI 1.4}、{HDMI 2.0}。

OSD ローテーション

OSD の回転を設定します。

言語選択

OSD メニューで使用する言語を選択します。

オプションは次の通りです：English/Français/Deutsch/Español/ Italiano/ 简体中文 / 繁體中文 /Português/ 日本語。

スキャン反転

オン：パネルのスキャンデータ反転機能をオンにします。

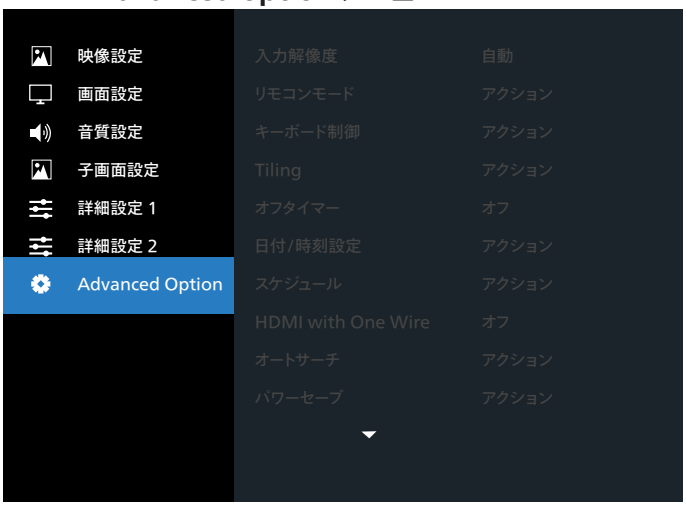
オフ：この機能をオフにします。

デフォルト：オフ。

詳細設定リセット

詳細設定 2 メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

6.2.7. Advanced option メニュー



入力解像度

VGA 入力の解像度を設定します。これは、本製品が VGA 入力解像度を正しく検出できない場合にのみ必要です。

注記：この項目は VGA 入力でのみ有効です。

オプションは次の通りです：

- {1024x768 / 1280x768 / 1360x768 / 1366x768}。
- {1400x1050 / 1680x1050}。
- {1600x1200 / 1920x1200}。
- { 自動 }：解像度を自動的に決定します。

選択された設定は、電源を入れ直した後で有効となります。

リモコンモード

RS232C 接続によって複数のディスプレイが接続されている場合、リモート制御の操作モードを選択します。

- { ノーマル } - すべてのディスプレイは、リモコンで正常に動作させることができます。
- {Primary} (プライマリ) - このディスプレイを、リモコン操作用の 1 次ディスプレイとして指定します。リモコンでは、このディスプレイのみを操作できます。(Primary モードでは、常に、IR キーは、モニター ID/ グループ設定にかかわらず処理されます)。
- {Secondary} (セカンダリ) - このディスプレイを 2 次ディスプレイとして指定します。このディスプレイはリモコンでは操作できず、RS232C 接続を通して 1 次ディスプレイからの制御信号のみを受信します。
- { すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源と音量以外を全ロック } - このディスプレイのリモコン機能をロックします。ロック解除するには、リモコンの [ ] INFO ボタンを 6 秒間長押しします。

注記：セカンダリ PD が { ノーマル } に設定されている場合、セカンダリ PD は常にプライマリ PD から IR 制御信号を受信します。

キーボード制御

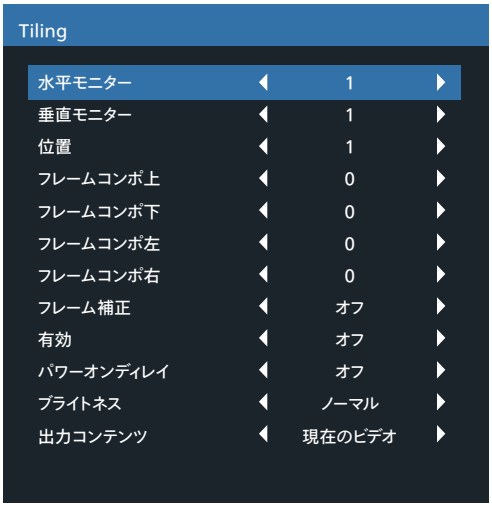
このボタンを選択すると、キーボード (制御タン) 機能が有効または無効になります。

- { ロック解除 } - キーボード機能を有効にします。
- { すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源と音量以外を全ロック } - キーボード機能を無効にします。

注記: 「キーボード制御ロックモード」この機能は、すべてのキーボード制御機能へのアクセスを完全に無効にします。キーボード制御ロックの有効 / 無効を切り替えるには、[+] と [⌂] ボタンを 3 秒以上押し続けます。

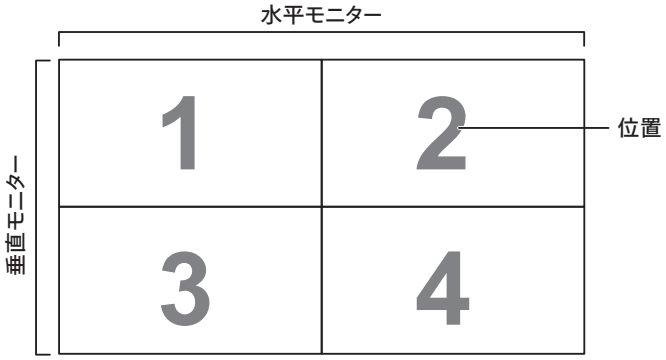
Tiling

この機能を使うと、最大 225 台のディスプレイ (縦に最大 15 台、横に最大 15 台) からなるひとつの大型スクリーン配列 (ビデオウォール) で作成することができます。この機能にはデイジーチェーン接続が必要です。



例:2 x 2 の画面マトリックス (ディスプレイ 4 台)

水平モニター = 2 ディスプレイ
垂直モニター = 2 ディスプレイ



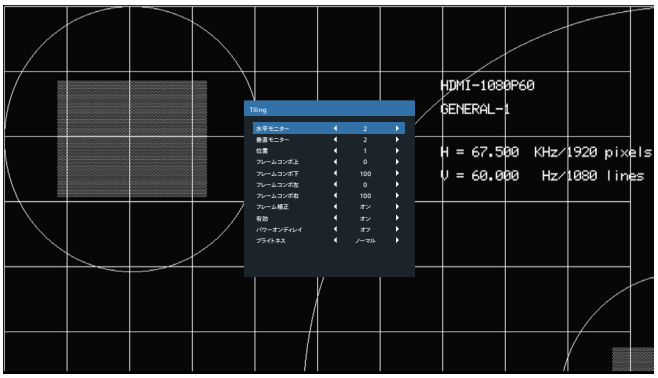
例:5 x 5 の画面マトリックス (ディスプレイ 25 台)

水平モニター = 5 ディスプレイ
垂直モニター = 5 ディスプレイ

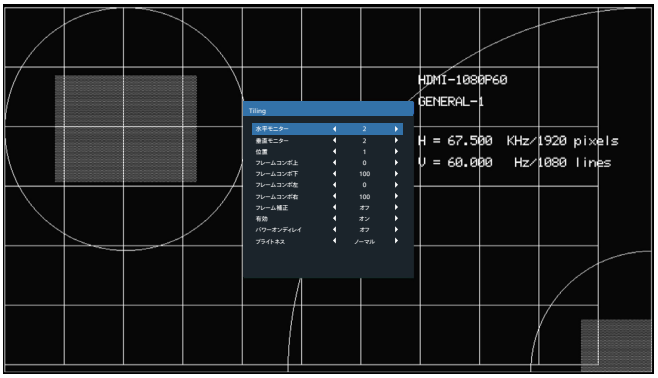


- { 水平モニター } - 水平側のディスプレイ数を選択します。
- { 垂直モニター } - 垂直側のディスプレイ数を選択します。
- { 位置 } - 画面マトリックス内の本製品の位置を選択します。
- { フレームコンポ上 } - 上部フレーム補正の画素数を設定します。
- { フレームコンポ下 } - 下部フレーム補正の画素数を設定します。
- { フレームコンポ左 } - 左フレーム補正の画素数を設定します。
- { フレームコンポ右 } - 右フレーム補正の画素数を設定します。
- { フレーム補正 } - フレーム補正機能をオンまたはオフにするかを選択します。{ はい } を選択すると、本製品は画像を正確に表示するために、画像を調整して、本製品のベゼル幅を補正します。

{ オン }



{ オフ }



- { 有効 } - Tiling 機能の有効 / 無効を選択します。有効にすると、本製品は { 水平モニター }、{ 垂直モニター }、{ 位置 }、{ フレーム補正 } の設定を適用します。
- { パワーオンディレイ } - パワーオンディスプレイ時間 (秒) を設定します。複数台のディスプレイが接続されている場合、デフォルトのオプション { 自動 } を使って、ID 番号に従って各ディスプレイを順

番にパワーオンすることができます。オプションは次の通りです:{ オフ / 自動 /2 ～ 255}。

- ブライトネス:{ ノーマル }/{ACS}。

{ ノーマル }:OSD ブライトネス値 (バックライト) を調整します。

{ACS}:MIC ツールで調節されたブライトネス値 (バックライト) を適用します。調整前のデフォルト値は、OSD ブライトネス値と同じです (例: 70)。

一部のブライトネス (バックライト) 設定は、OSD により調整することができません。映像設定メニューのバックライト設定の優先順位を参照してください。

- 出力コンテンツ:DP 出力転送ソースを選択する。

{Current Video} (現在のビデオ):現在のビデオソースを転送する。

{Displayport}:Displayport のソースを転送するように強制されました。

注記:

- カスタムズーム / 子画面設定 /Tiling は混在できません。
- 最大ビデオ入力:
  タイルが有効になっている状態での最大ビデオ入力解像度。
  4K30Hz。
  タイルが無効になっている状態での最大ビデオ入力解像度。
  4K60Hz。

オフタイマー

自動電源オフ時間 (時間単位) で設定します。

日付 / 時刻設定

本製品の内部時計の日付 / 時刻設定を調整します。



1. [OK] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
2. [ ] または [ ] ボタンを押すと、{ 年 },{ 月 },{ 日 },{ 時間 },{ 分 } を切り替えられます。
3. [ ] または [ ] ボタンを押すと、すべての設定を調整できます。
4. [ ] または [ ] ボタンを押して項目を選択し、[ ] または [ ] ボタンを押して調整します。

スケジュール

この機能により、最大 7 つの異なるスケジュールされた時間間隔で本製品をアクティブにするプログラムができるようになります。

以下の選択が可能です:

- 本製品を電源オン、電源オフにする時間。
- 本ディスプレイを有効にする曜日。
- スケジュールされた各稼働期間で、本製品がどの入力ソースを使用するか。

注記: この機能を使用する前に、{ 日付 / 時刻設定 } メニューで現在の日付 / 時刻を設定するようにお勧めします。

1. [OK] または [ ] ボタンを押してサブメニューに入ります。



2. [ ] または [ ] ボタンを押してスケジュール項目 (1-7 の項目番号) を選択し、次に [OK] ボタンを押して、項目番号をマークします。
3. [ ] または [ ] ボタンを押してスケジュールを選択します。
   ① 電源オンスケジュール:[ ] または [ ] ボタンを押して、本製品の電源をオンにする時間と分を設定します。
   ② 電源オフスケジュール:[ ] または [ ] ボタンを押して、本製品の電源をオフにする時間と分を設定します。
   この電源オンまたは電源オフスケジュールを使用したくない場合は、時間と分スロットを選択するかまたは「__」(空) のままにしておきます。
   ③ 入力ソースの選択:[ ] または [ ] ボタンを押して入力ソースを選択します。入力ソースが選択されない場合、入力ソースは前回選択されたものと同じになります。
   ④ 日付スケジュール:[ ] ボタンを押して、このスケジュール項目が何曜日に有効になるか選択し、次に [OK] ボタンを押します。
4. さらにスケジュール設定を行うには、[←] を押して、上記のステップを繰り返します。スケジュール項目の番号の横にあるボックスの中のチェックマークは、選択されたスケジュールが有効であることを示しています。

注記:

- スケジュールが重なった場合、スケジュールされた電源 ON 時間がスケジュールされた電源 OFF 時間よりも優先されます。
- 同じ時間に 2 つのスケジュール項目がプログラムされている場合、番号の高いスケジュールが優先されます。例えば、項目 1 と項目 2 の両方が、本製品を朝 7 時に電源オン、夕方 5 時に電源オフする設定されている場合、スケジュール項目 2 のみが有効となります。

HDMI with One Wire

CEC 制御。

- { オフ } - CEC を無効にします。(デフォルト)。
- { オン } - CEC を有効にします。

オートサーチ

本製品が利用可能な信号ソースを自動で検出し、表示させるように選択します。

- { オフ } - 信号が接続されると、手動での選択のみとなります。

選択した入力からの信号がない場合は、ディスプレイが各オプションの検索順序に従って自動的に画像を表示するように設定します。

オプションは次の通りです：{ すべて }/{ フェールオーバー }

- { すべて }：DP -> HDMI1 -> DVI -> VGA。
- { フェールオーバー }
  - フェールオーバー 1：ユーザー定義の設定。デフォルト：HDMI 1。
  - フェールオーバー 2：ユーザー定義の設定。デフォルト：HDMI 1。
  - フェールオーバー 3：ユーザー定義の設定。デフォルト：HDMI 1。
  - フェールオーバー 4：ユーザー定義の設定。デフォルト：HDMI 1。
  - フェールオーバー 5：ユーザー定義の設定。デフォルト：HDMI 1。

パワーセーブ

パワーセーブモード

モード 1：[TCP オフ、WOL オン、自動オフ]

DC オフ -> 電源オフ。LED：赤。

パワーセーブ -> 電源オフ、LED：赤。

モード 2：[TCP オフ、WOL オン、自動オン / オフ]

DC オフ -> 電源オフ、LED：赤。

パワーセーブ -> パワーセービング。

LED：オレンジ。ウェイクアップすることができます。

モード 3：[TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフ]

DC オフ -> バックライトオフ、LED：赤。

パワーセーブ -> バックライトオフ、LED：オレンジ。ウェイクアップすることができます。

モード 4：[TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフなし]

DC オフ -> バックライトオフ、LED：赤。

パワーセーブ -> パワーセーブモードに入りません。「信号なし」のみが表示されます。

モード 3	モード 1 (デフォルト)
DC オフ: バックライトオフのみ パワーセーブ: バックライトオフのみ	DC オフ: 電源オフ パワーセーブ: 電源オフ
モード 4	モード 2
DC オフ: バックライトオフのみ パワーセーブ: 信号なし (バックライトオン)	DC オフ: 電源オフ パワーセーブ: 省電力

DC オフ / オン：RC により電源ボタンを押します。

ファームウェア更新

USB によりスカラー FW を更新します。

インフォメーション OSD

画面の右上部に情報 OSD が表示される時間を設定します。インフォメーション OSD は入力信号が変更されると表示されます。

インフォメーション OSD は { オフ } を選択すると画面に残ります。

オプションは次の通りです：{1 ～ 60} 秒。

OPS 設定

OPS ステータスを設定します

- { 自動 } - 動画ソース入力に {Card OPS} (カード OPS) を選択した後、ディスプレイの電源がオフに設定されている場合、OPS はオフに設定されます。また、ディスプレイの電源がオンに設定されている場合、OPS はオンに設定されます。その他の動画ソース入力に設定されている場合、OPS は常にオンに設定されます。
- { 常にオフ } - OPS は常にオフに設定されます。
- { 常にオン } - OPS は常にオンに設定されます。

* OPS モデルのみ。

Advanced Option Reset

アドバンスドオプションメニューの { 日付 / 時刻設定 } 以外のすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

1. [OK] または [▷] ボタンを押してサブメニューに入ります。
2. [◁] または [▷] ボタンを押して { リセット } を選択し、次に [OK] ボタンを押して設定を工場出荷時の値に戻します。
3. [←] ボタンを押すか { キャンセル } を選択し、次に [OK] ボタンを押してキャンセルして前のメニューに戻ります。

7. 入力モード

項目	解像度	参考文献	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	注記
1	640x480	VESA DMT、CEA-861-F フォーマット 1	31.469	59.940	
2	640x480	VESA DMT	37.861	72.809	
3	640x480	VESA DMT	37.500	75.000	
4	640x480	VESA DMT	43.269	85.008	
5	800x600	VESA DMT	37.879	60.317	
6	800x600	VESA DMT	48.077	72.188	
7	800x600	VESA DMT	46.875	75.000	
8	800x600	VESA DMT	53.674	85.061	
9	848x480	VESA CVT	29.830	59.659	
10	848x480	VESA CVT	37.684	74.769	
11	848x480	VESA CVT	42.969	84.751	
12	1024x768	VESA DMT	48.363	60.004	
13	1024x768	VESA DMT	56.476	70.069	
14	1024x768	VESA DMT	60.023	75.029	
15	1024x768	VESA DMT	68.677	84.997	
16	1152x864	VESA DMT	63.851	70.012	
17	1152x864	VESA DMT	67.500	75.000	
18	1152x864	VESA DMT	77.094	84.999	
19	1280x768	VESA CVT	39.593	49.929	
20	1280x768	VESA CVT-R	47.396	59.995	
21	1280x768	VESA CVT	47.776	59.870	
22	1280x768	VESA CVT	60.289	74.893	
23	1280x768	VESA CVT	68.633	84.837	
24	1280x960	VESA DMT	60.000	60.000	
25	1280x960	VESA DMT	75.000	75.000	
26	1280x960	VESA DMT	85.938	85.002	
27	1280x1024	VESA DMT	63.981	60.020	
28	1280x1024	VESA DMT	79.976	75.025	
29	1280x1024	VESA DMT	91.146	85.024	
30	1366x768	VESA DMT	47.712	59.790	
31	1400x1050	VESA CVT	54.113	49.965	
32	1400x1050	VESA CVT-R	64.744	59.948	
33	1400x1050	VESA CVT	65.317	59.978	
34	1400x1050	VESA CVT	82.278	74.867	
35	1600x1200	VESA DMT	75.000	60.000	
36	1920x1080	VESA CVT	55.621	49.929	
37	1920x1080	VESA CVT	67.158	59.963	DVI はサポートされていません
38	1920x1080	VESA CVT-R	66.587	59.950	
39	1920x1200	VESA CVT	61.816	49.932	
40	1920x1200	VESA CVT-R	74.038	59.950	
41	1680x1050	VESA CVT	54.121	49.974	
42	1680x1050	VESA CVT	65.290	59.954	
43	1920x2160	CEA-861-F、VIC 16、垂直パラメータが 2 倍になっています	135.000	60.000	VGA はサポートされていません
44	1920x2160	VESA CVT-R	133.293	59.988	VGA はサポートされていません
45	2560x1440	VESA CVT-R	88.787	59.951	VGA はサポートされていません
46	2560x1600	VESA CVT-R	98.713	59.972	VGA はサポートされていません
47	3840x1080	VESA CVT-R	66.625	59.968	VGA はサポートされていません
48	3840x2160	VESA CVT-R	52.438	23.999	VGA はサポートされていません
49	3840x2160	VESA CVT-R	65.688	29.981	VGA はサポートされていません
50	3840x2160	VESA CVT-R	110.500	49.977	DVI はサポートされていません Tiling モードはサポートされていません
51	3840x2160	VESA CVT-R	133.313	59.997	DVI はサポートされていません Tiling モードはサポートされていません
52	480i	CEA-770.2、CEA-861-F フォーマット 6 および 7	15.734	59.940	HDMI のみがサポートされています

項目	解像度	参考文献	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	注記
53	576i	ITU-R BT.601、CEA-861-F フォーマット 21 および 22	15.625	50.000	HDMI のみがサポートされています
54	480p	CEA-770.2、CEA-861-F フォーマット 2 および 3	31.469	59.940	
55	576p	ITU-R BT.1358、CEA-861-F フォーマット 17 および 18	31.250	50.000	
56	1080i	SMPTE 274M、CEA-861-F フォーマット 20	28.125	50.000	
57	1080i	SMPTE 274M、CEA-861-F フォーマット 5	33.750	60.000	
58	720p	SMPTE 296M、CEA-861-F フォーマット 19	37.500	50.000	
59	720p	SMPTE 296M、CEA-861-F フォーマット 4	45.000	60.000	
60	1080p	SMPTE 274M、CEA-861-F フォーマット 32	27.000	24.000	
61	1080p	SMPTE 274M、CEA-861-F フォーマット 33	28.125	25.000	
62	1080p	SMPTE 274M、CEA-861-F フォーマット 34	33.750	30.000	
63	1080p	SMPTE 274M、CEA-861-F フォーマット 31	56.250	50.000	
64	1080p	SMPTE 274M、CEA-861-F フォーマット 16	67.500	60.000	
65	3840x2160	CEA-861-F フォーマット 93、HDMI 1.4b VIC 1	54.000	24.000	VGA はサポートされていません
66	3840x2160	CEA-861-F フォーマット 94、HDMI 1.4b VIC 2	56.250	25.000	VGA はサポートされていません
67	3840x2160	CEA-861-F フォーマット 95、HDMI 1.4b VIC 3	67.500	30.000	VGA はサポートされていません
68	3840x2160	CEA-861-F フォーマット 96、4:2:0 サブサンプリング	67.500	50.000	VGA はサポートされていません Tiling モードはサポートされていません
69	3840x2160	CEA-861-F フォーマット 96	112.500	50.000	VGA はサポートされていません Tiling モードはサポートされていません
70	3840x2160	CEA-861-F フォーマット 97、4:2:0 サブサンプリング	67.500	60.000	VGA はサポートされていません Tiling モードはサポートされていません
71	3840x2160	CEA-861-F フォーマット 97	135.000	60.000	VGA はサポートされていません Tiling モードはサポートされていません
72	4096x2160	CEA-861-F フォーマット 98	54.000	24.000	VGA はサポートされていません Tiling モードはサポートされていません
73	4096x2160	CEA-861-F フォーマット 99	56.250	25.000	VGA はサポートされていません Tiling モードはサポートされていません
74	4096x2160	CEA-861-F フォーマット 100	67.500	30.000	VGA はサポートされていません Tiling モードはサポートされていません

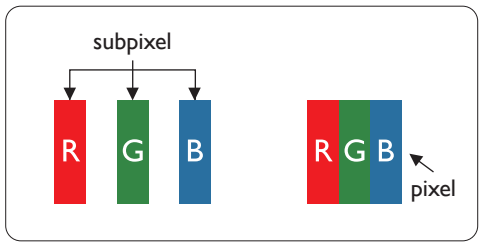
- PC のテキスト品質は、HD 1080 モード (1920 × 1080、60Hz) で最適です。
- お使いの PC ディスプレイ画面は、メーカー (および Windows の特定のバージョン) により異なって表示されることがあります。
- PC をディスプレイに接続する情報については、お使いの PC の取扱説明書を確認してください。
- 垂直と水平の周波数選択モードが存在する場合、60Hz (垂直) と 31.5KHz (水平) を選択します。場合によって、PC の電源がオフの場合 (または PC が接続されていない場合) に異常な信号 (筋など) が画面に表示されることがあります。その場合はディスプレイ本体の「入力」ボタンを押してビデオモードに入ります。また、PC が接続されていることを確認してください。
- 水平同期信号が RGB モードで不規則に見えるときは、PC の省電力モードまたはケーブル接続を確認してください。
- 本ディスプレイの設定表は IBM/VESA 規格に準拠しており、アナログ入力に基づいています。
- DVI サポートモードは PC サポートモードと同じと見なされます。
- 各モードの最適な垂直周波数は 60Hz です。
- 最大ビデオ入力：
  タイルが有効になっている状態での最大ビデオ入力解像度。4K30Hz。
  タイルが無効になっている状態での最大ビデオ入力解像度。4K60Hz。

8. 画素欠陥ポリシー

当社は最高品質の製品をお届けすることを目指して、業界でもっとも進んだ製造プロセスと可能な限りもっとも厳しい品質管理を採用しています。しかしながら、プラズマおよび LCD ディスプレイで使用される PDP/TFT パネルの画素またはサブ画素に欠陥が生じるのはやむを得ない場合があります。すべてのパネルに画素欠陥がないことを保証できるメーカーはありませんが、Philips では保証期間中であれば、地域の保証条件と一致して、受け入れられない数の欠陥があるプラズマおよび LCD ディスプレイを修理または交換することを保証します。

この通知はさまざまな種類の画素欠陥を説明し、LCD 画面について受け入れられる欠陥レベルを定義するものです。保証に基づき修理の資格を得るには、欠陥画素の数が参照表で示した特定のレベルを超えている必要があります。LCD 画面が仕様の範囲内である場合、保証による交換 / 返金はお断りいたします。また、ある種類または組み合わせの画素欠陥が他のものより顕著であることもあるため、Philips ではこれらのものに対してより高い品質規格を設定しています。

8.1. 画素とサブ画素



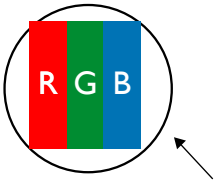
画素、または画像要素は赤、緑、青の原色の 3 つのサブ画素で構成されています。多くの画素が集まって画像を形成します。画素のすべてのサブ画素が明るいと、3 つの色の付いたサブ画素が 1 つの白い画素として一緒に表示されます。すべての画素が暗くなると、3 つの色の付いたサブ画素は 1 つの黒い画素として集まって表示されます。点灯するサブ画素と暗いサブ画素のその他の組み合わせは、他の色の 1 つの画素として表示されます。

8.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義

画素とサブ画素の欠陥は、さまざまな方法で画面に表示されます。画素欠陥には 3 つのカテゴリーがあり、各カテゴリーにはいくつかの種類のサブ画素欠陥があります。

ドット定義 = 欠陥のある「ドット」とは何か？：

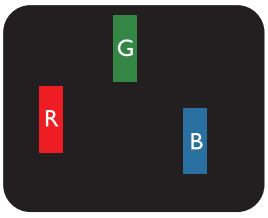
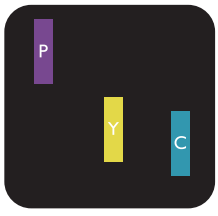
1 つ以上の欠陥、隣接するサブ画素は 1 つの「ドット」として定義されます。欠陥のあるサブ画素の数は、欠陥ドットの定義に関連しません。つまり、欠陥ドットは 1、2 または 3 つの暗いまたは点灯する、欠陥サブ画素で構成されることがあります。



1 つのドット = 赤、緑、青の 3 つのサブ画素で構成される 1 つの画素。

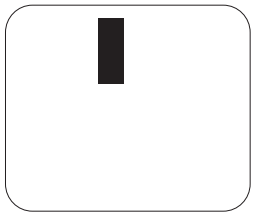
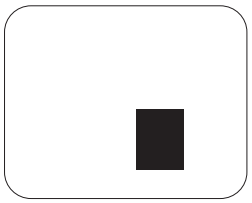
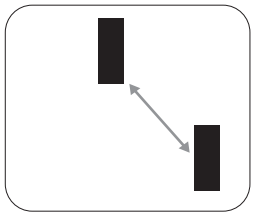
8.3. 明るいドット欠陥

明るいドット欠陥は、常時点灯または「オン」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、明るいドット欠陥の例を紹介します。

		
1 つの点灯する赤、緑または青いサブ画素。	2 つの隣接する点灯サブ画素： 赤 + 青 = 紫 赤 + 緑 = 黄 緑 + 青 = 青緑 (ライトブルー)	3 つの隣接する点灯サブ画素 (1 つの白い画素)

8.4. 暗いドット欠陥

暗いドット欠陥は、常に暗いかまたは「オフ」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、暗いドット欠陥の例を紹介します。

		
1 つの暗いドット	2 つの隣接する暗いドット = 1 組の暗いドット	2 つの暗いドット、仕様は暗いドット間の最小距離を定義します

8.5. 画素欠陥の近接

互いに近くにある同じ種類の画素とサブ画素欠陥はとても目立つため、Philips では画素欠陥の近接の許容範囲についても指定しています。以下の表で、その仕様をご確認ください。

- 許容される量の隣接する暗いドット = (隣接する暗いドット = 1 組の暗いドット)
- 暗いドット間の最小距離
- すべての欠陥ドットの総数

8.6. 画素欠陥の許容範囲

保証期間中に画素欠陥による修理または交換の資格を得るには、Philips プラズマ /LCD ディスプレイの PDP/TFT モニタパネルに、次の表に一覧された許容範囲を超えた画素またはサブ画素欠陥がある必要があります。

明るいドット欠陥	受け入れられるレベル
1 つの明るいサブ画素	2
黒いドット欠陥	受け入れられるレベル
1 つの暗いサブ画素	10
すべての種類の総ドット欠陥	12

注記：* 1 つまたは 2 つの隣接するサブ画素欠陥 = 1 つのドット欠陥。

8.7. MURA

一部の LCD (液晶ディスプレイ) パネルには、暗い点またはパッチがときどき現れることがあります。この現象は、日本語の「ムラ」という用語である Mura として業界では知られています。これは、均一でない画面均一性が特定の条件下で現れる領域の一様でないパターンを説明するために使用されます。Mura は液晶配向層の劣化の結果で、高い周辺温度下での長期間の操作が原因でもっとも一般的に引き起こされます。 これは業界全体の現象で、Mura は修理できません。これも、当社の保証条件の対象外です。

Mura は LCD 技術の導入から、画面が大きくなり 1 日 24 時間休みなしに稼働するようになり、多くのディスプレイが低い低光量の条件下で動作されるようになってからずっとつきまとっています。こういったことすべてが、ディスプレイに影響を与える Mura の可能性を高めています。

Mura を見分ける方法

Mura には多くの症状と、複数の原因があります。これらのいくつかを、以下に一覧します。

- 結晶マトリックスの混入物または異物
- 製造中の液晶マトリックスの不均等な分布
- バックライトの付近位置な輝度分布
- パネル部品誘発ストレス
- LCD セル内部の傷
- 熱誘発ストレス - 長期間にわたる高温での操作

Mura を避ける方法

毎回 Mura を完全に根絶する保証はできませんが、一般に Mura の出現は以下の方法により最小限に抑えることができます。

- バックライトの明るさを下げる
- スクリーンセーバーを使用する
- 装置周囲の空気温度を下げる

9. 清掃とトラブルシューティング

9.1. 清掃

本ディスプレイを使用する際の注意

- 手や顔、物を本ディスプレイの通気口に近づけないでください。本ディスプレイの上部は、通気口から放出される高温の排気のため、通常は高温となっています。身体の一部を近づけすぎると、火傷や怪我をすることがあります。本ディスプレイの上部近くになんらかの物を置くと、この物およびディスプレイ自体に熱関連の損傷が起こることがあります。
- 本ディスプレイを移動する際は、必ずすべてのケーブルを抜いてください。ケーブルが接続されたままディスプレイを移動させると、ケーブルが損傷し、その結果、火事や感電の恐れがあります。
- あらゆる種類の清掃や保守作業を行う前に、安全対策として電源プラグをコンセントから抜いてください。

前面パネル清掃手順

- 本ディスプレイの前面には特別な処理が施されています。表面は布巾または柔らかい糸くずの出ない布で優しく拭いてください。
- 液晶パネル表面が汚れた場合には、中性洗剤の溶液に柔らかい糸くずの出ない布を浸し、布を堅く絞り、余分な水分を除きます。本ディスプレイの表面を拭き、埃を除いてください。その後、同じ種類の乾いた布で拭いてください。
- 液晶パネル表面を爪で引っ掻いたり、硬い物をぶつけたりしないで下さい。
- 殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないで下さい。

キャビネット清掃手順

- キャビネットが汚れたら、柔らかい乾いた布で拭いてください。
- キャビネットがひどく汚れている場合には、中性洗剤の溶液に柔らかい、糸くずの出ない布を浸します。布を絞り、できるだけ水分を除きます。キャビネットを拭き取ります。表面が乾くまで、別の乾いた布で拭きます。
- プラスチック部品の洗浄に油を含む溶液を使用しないでください。このような製品はプラスチック部品を損傷し、保証を無効にします。
- 本ディスプレイの表面には、水や洗剤が触れないようにしてください。水や水分が本ディスプレイ内部に入り込むと、動作上の問題、電気的障害、および感電事故が起こる恐れがあります。
- 爪やあらゆる種類の堅い物でキャビネットを引っ掻いたり、ぶつけたりしないでください。
- キャビネットには殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないでください。
- 長期間ゴムまたはポリ塩化ビニル製の物をキャビネット近くに置かないでください。

9.2. トラブルシューティング

症状	想定される原因	対処
画像が表示されない	1. 電源コードが抜けています。 2. 本ディスプレイの背面にある主電源スイッチが ON になっていません。 3. 選択された入力が接続されていません。 4. ディスプレイがスタンバイモード中です。	1. 電源コードをコンセントに差し込みます。 2. 電源スイッチが ON であることを確認します。 3. 本ディスプレイに信号接続を接続します。
本ディスプレイで表示される画像が乱れる、または音声にノイズが聞こえる	周囲の電子機器や蛍光灯が原因です。	干渉が少なくなるような別の場所に本ディスプレイを移動させます。
色がおかしい	信号ケーブルが正しく接続されていません。	本ディスプレイの背面に信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。
画像が異常なパターンで歪んでいる	1. 信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 入力信号が本ディスプレイの能力を超えています。	1. 信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。 2. 本ディスプレイの範囲を超えていないか、ビデオ信号ソースを確認します。本ディスプレイの仕様のセクションで、仕様を確認してください。
表示画像が画面サイズいっぱいに表示されない	1. ズームモードが正しく設定されていません。 2. スキャンモードが間違ってアンダースキャンに設定されています。 3. 画像が画面サイズを超える場合、スキャンモードをアンダースキャンに設定する必要があります。	画面設定メニューのズームモードまたはカスタムズーム機能を使用して、ディスプレイのジオメトリーと周波数パラメータを微調整します。
音声は聞こえるが、画像が表示されない	ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。	ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。
画像は表示されるが、音声が聞こえない	1. ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 音量が一番低く設定されています。 3. { 消音 } がオンになっている。 4. 外部スピーカーが接続されていません。	1. ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。 2. [＋] または [ー] ボタンを押して音声が聞こえるか確認します。 3. [🔇] ボタンを使って消音をオフにします。 4. 外部スピーカーを接続し、適切なレベルに音量を調整します。
一部の画素が光らない	ディスプレイの一部のピクセルがオフになっています。	本ディスプレイは超ハイレベルな精密技術で製造されています。しかし、画面の一部に画素欠けが存在する場合があります。これは故障ではありません。
電源をオフにした後も残像が表示されています。(例:ロゴ、ビデオゲーム、コンピュータ画像、4:3 のノーマルモードで表示された画像を含む静止画像)	静止画像が時間より長く表示されていました。	長期間静止画像を表示しないようにしてください。本ディスプレイ上に永続的な残像が残る原因となるためです。

10. 技術仕様

ディスプレイ:

項目	仕様
画面サイズ (アクティブ領域)	54.6" (138.7 cm) LCD
縦横比	16:9
画素数	1920 (水平) x 1080 (垂直)
画素ピッチ	0.63 (横) x 0.63 (縦) [mm]
表示可能色	8 ビット、1670 万色
ブライトネス (標準)	700 cd/m^2
コントラスト比 (標準)	1200:1
表示角度	178 度

入 / 出力端子:

項目		仕様
スピーカー出力	内部スピーカー 外部スピーカー	10W (左) + 10W (右) [RMS]/8 Ω 82 dB/W/M/160 Hz ～ 13 Khz
音声出力	フォンジャック x 1	0.5V [rms] (ノーマル)
音声入力	3.5mm ステレオ x 1	0.5V [rms] (ノーマル)
IR 入力	3.5mm フォンジャック x 1	IR 入力
RJ-45 入力 / 出力	RJ-45 ジャック x 2 (8 ピン)	10/100 LAN ポート
制御入力 / 出力	RJ-45 ジャック x 2 (8 ピン)	RS232 および IR パススルー機能
HDMI 入力	HDMI ジャック x 2 (タイプ A) (18 ピン)	TMDS (ビデオ + 音声) 最大 : 動画 - 720p、1080p、2160p 音声 - 48 KHz/2 チャンネル (左 + 右) LPCM のみサポート
VGA 入力	D-Sub ジャック x 1 (15 ピン)	アナログ RGB:0.7V [p-p] (75 Ω)、H/CS/V: TTL (2.2k Ω)、SOG: 1V [p-p] (75 Ω) 最大 : 1920 x 1080/60 Hz (FHD)
DVI-D	DVI-D ジャック x 1 (24 ピン)	TMDS (ビデオ) 最大 : 1920 x 1080/60 Hz (FHD)
DisplayPort 入力 / 出力	ディスプレイポート ジャック x 2 (20 ピン)	デジタル RGB:TMDS (ビデオ + 音声) 最大 : 動画 - 720p、1080p、2160p 音声 - 48 KHz/2 チャンネル (左 + 右) LPCM のみサポート
USB 入力	USB 2.0 x 1	FW 更新用

一般:

項目	仕様
電源	AC 100 - 240V、50/60Hz
消費電力 (最大)	370 W
消費電力 (標準)	190 W
消費電力 (スタンバイ & オフ)	<0.5 W
寸法 [幅 x 高さ x 奥行]	1210.48 mm (幅) x 681.28 mm (高さ) x 95.25 mm (壁取り付けの場合の奥行)/94.33mm(直径)(ハンドル付き)
重量	27.70 Kg
総重量	36.31 Kg

注記:OPS 電力消費バジェットは 64W です。

環境条件:

項目		仕様
温度	操作時	0 ~ 40° C
	保管時	-20 ~ 60° C
湿度	操作時	20 ～ 80% RH (結露なし)
	保管時	5 ～ 95% RH (結露なし)
高度	操作時	0 ~ 5,000 m
	保管時 / 輸送中	0 ~ 9,000 m

索引

安全上の注意 1
エッジアラインメントキットの使用法 12
エッジ仕上げキットの使用 (オプション) 13
オーディオ機器を接続する 21
ギャップパッドの使用 14
コントロールパネル 15
デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接続する 22
リモコン 17
入力モード 35
入力 / 出力端子 16
取り扱い 25
各部の機能 15
壁に取り付ける 10
外部機器の接続（マルチメディアプレーヤー） 20
外部機器を接続する 20
技術仕様 41
梱包箱に含まれているもの 9
清掃とトラブルシューティング 39
画素欠陥ポリシー 37
縦長向きの設置について 11
設置に関する注意 9
開梱 4
開梱と設置 4
開梱検査手順 6

I

IR 接続 24

O

OSD メニュー 25
OSD メニューの概要 25
OSD メニューをナビゲートする 25

P

PC の接続 20

2026 © MMD Hong Kong Holding Limited 無断複製および転載を禁じます。

本製品は、MMD Hong Kong Holding Limited,によって製造され、その責任の下で販売されており、MMD Hong Kong Holding Limited,が本製品に関する保証人です。Philips およびPhilips Shield Emblemは、Koninklijke Philips N.V.の登録商標であり、ライセンスに基づいて使用されています。

仕様は、事前の通知なしに変更することがあります。
バージョン： V1.00 2026-08-14